

I 五類定点把握感染症
(性感染症を除く)

I 五類定点把握感染症（性感染症を除く）

1. 2022年の総括

2022（令和4）年の大阪府感染症発生動向調査事業における5類定点把握感染症（性感染症を除く）の特徴について概説する（表）。2022年は、小児科定点疾患、眼科定点疾患、基幹定点疾患の総計数は64,681となり、2021年 75,728よりも、14.6%の減少であった。この理由は、（1）インフルエンザと流行性角結膜炎以外の感染症で、減少または増減なしであったこと、（2）RSウイルス感染症（前年比較：3,739例減）、感染性胃腸炎（前年比較：2,678例減）、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎（前年比較：1,565例減）、手足口病（前年比較：1,417例減）と、大幅な減少が見られたこと、以上が考えられる。

全国では、定点あたりの年平均の週間報告数として、感染性胃腸炎、手足口病、RSウイルス感染症、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、突発性発しん、ヘルパンギーナ、流行性角結膜炎、咽頭結膜熱の順であった。大阪府では、感染性胃腸炎、RSウイルス感染症、手足口病、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、突発性発しん、インフルエンザ、咽頭結膜熱、ヘルパンギーナの順であった。全国の発生動向と比較すると、上位2位と上位3位の疾患の順番、上位6位と上位7位と上位8位の疾患の順番、インフルエンザが上位6位に入っていること、などが異なっていた。

大阪府の発生動向について、2021年と比較すると、インフルエンザの年平均の週間報告数が0.02から0.23へ、昨年より増加が見られたが、コロナ禍前の数値と比べると、かなり低い状況である（2019年 5.63）。RSウイルス感染症の年平均の週間報告数が1.58から1.21へ、昨年より、23.3%の減少が見られた。手足口病の年平均の週間報告数が0.77から0.63へ、昨年より、18.0%の減少が見られた。感染性胃腸炎の年平均の週間報告数が3.66から3.40へ、昨年より、7.2%の減少が見られた。

（文責：本村）

表 定点あたり週間報告数の年平均値

全 国			大 阪 府		
順位	感染症	定点あたり報告数	順位	感染症	定点あたり報告数
1	感染性胃腸炎	3.76	1	感染性胃腸炎	3.40
2	手足口病	0.97	2	RSウイルス感染症	1.21
3	RSウイルス感染症	0.74	3	手足口病	0.63
4	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.32	4	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.32
5	突発性発しん	0.29	5	突発性発しん	0.25
6	ヘルパンギーナ	0.23	6	インフルエンザ	0.23
7	流行性角結膜炎	0.18	7	咽頭結膜熱	0.21
8	咽頭結膜熱	0.15	8	ヘルパンギーナ	0.19

1) 2022 年に注目された感染症

[梅毒]

梅毒は、*Treponema pallidum* によって引き起こされる性感染症である。コロンブスの新世界への航海がアメリカ大陸から梅毒をヨーロッパに持ち帰り、15 世紀末から 16 世紀初頭のヨーロッパで最初に大流行したとされている。日本では、江戸時代に都市部や港町を中心に感染が広まった。大阪府では⁽¹⁾、1950 年には約 10,000 件の報告数があったが、抗菌薬の普及とともに報告数は急速に減少し、1956 年には 1000 件を下回った。その後も減少は続き 1990 年代以降は 100 件程度の低い報告数が続いていた。2010 年代後半から再び増加に転じ、2018 年は 1188 件、2019 年は 1101 件と、1000 件を超えた⁽²⁾。2020 年、新型コロナウイルス感染症のパンデミックが発生し、様々な行動制限がとられた。梅毒の報告数は、2020 年 902 件、2021 年 850 件と減少した。しかし、2022 年には報告数は大幅な増加に転じ、最終的に 1825 件と、70 年ぶりの高い報告数となった。ちなみに諸外国では、行動制限に伴い報告数が増えた国も減った国もあり、行動制限が実際に梅毒報告数を減らしたかは不明である。

大阪府での梅毒患者の特徴⁽²⁾は、ブロック別では大阪市が大部分をしめ、年齢階級別では、男性は、20 代から 60 歳以上まで幅広く分布する一方女性は 20-24 歳に集中している。妊娠の可能性のある者のうち感染リスクがある者や、妊娠中、または、妊娠の可能性のある者のパートナーに対する、積極的な検査実施と啓発が重要であると考えられる。2022 年の前半は、男性異性間、および女性異性間性的接触者のみ報告数が増加したが、後半には男性同性間でも増加している。女性異性間と男性同性間は男性異性間に比較し無症状の割合が高く、また、その割合は増加傾向にある。男性のうち性風俗産業利用歴のある報告例は 30%前後(28~36%)で推移しており、女性のうち性風俗産業従事歴のある報告例が 50%前後(50~56%)で推移している。ただし、男性のうち性風俗産業利用歴不明の報告例が 20%台で推移していることに注意が必要である。

2022 年の梅毒報告数の急激な増加の原因については、以下が推察される。①梅毒の自己検査の普及、②コロナ禍の受診控えとその後のリバウンド、③患者や医師の梅毒の意識の高まり、④コロナ禍の性風俗産業の形態の変化^(3,4)。性感染症の疾患特性から、関係者から疫学情報を得ることは容易ではないものの、今後の対策を考えるためにも精度の高い疫学情報の収集が不可欠である。

(文責：鵜飼)

参考文献

1. 大阪府. 大阪府統計年鑑 [Internet]. 大阪府. [cited 2023 May 11]. Available from: <https://www.pref.osaka.lg.jp/toukei/nenkan/index.html>
2. 梅毒 | 大阪府感染症情報センター [Internet]. [cited 2023 May 9]. Available from: <http://www.iph.pref.osaka.jp/zensu/20210128104826.html>
3. Ukai T, Kakimoto K, Kawahata T, Miyama T, Iritani N, Motomura K. Resurgence of syphilis in 2022 among heterosexual men and women in Osaka, Japan. *Clin Microbiol Infect* [Internet]. 2022 Nov 19; Available from: <http://dx.doi.org/10.1016/j.cmi.2022.11.010>
4. Ghaznavi C, Tanoue Y, Kawashima T, Eguchi A, Yoneoka D, Sakamoto H, et al. Recent changes in the reporting of STIs in Japan during the COVID-19 pandemic. *Sex Transm Infect* [Internet]. 2022 Apr 22; Available from: <http://dx.doi.org/10.1136/sextrans-2021-055378>

2) 感染症別・週別患者報告状況

「2022 年（令和 4）年の総括」で記した疾患について、定点当たり報告数の最高値が報告された週や最高値を示す（表 1）。2022 年は、2020 年と 2021 年に引き続き、新型コロナウイルス感染症流行に伴う、新しい生活様式を継続（手洗い、マスクの着用、身体的距離の確保、密閉、密集、密接の回避）していたが、小中学校・義務教育学校・高校の休校措置はなかった。

インフルエンザは、2021 年に引き続き、上位 5 疾患に入っていなかったが、第 6 位となっている。2022 年、第 43 週（10 月第 4 週 定点あたり報告数：0.08）を起点として、増加傾向にあり、第 51 週（12 月第 3 週）の定点あたり報告数は 2.24 で、流行開始の目安 1 を超えていた。

感染性胃腸炎は、1 月第 3 週に最高値 7.51 を示している。2021 年の 11 月、12 月、報告数の増加が認められ、その勢いを保持したまま、2022 年 1 月第 3 週に最高値を示した。感染性胃腸炎は初夏と冬の 2 峰性の流行パターンを示すことが多い。2022 年は、第 24 週（6 月第 2 週）に 6.40 となっていた。

RS ウイルス感染症は、2021 年は、年初 1 月から定点あたり報告数の立ち上がりが認められていたが、2022 年は、5 月から立ち上がっていた。2022 年第 29 週（7 月第 3 週）に、最高値 7.30 に到達した。7.30 は、現状の報告システムとなり、過去最高値である。大阪では、2015 年以前まで、12 月ごろに最高値に到達していたが、2016 年以降は 9 月ごろに最高値に到達するようになり、時期が早まった。この理由は、まだ、科学的に証明はされていない。2021 年は 5 月第 4 週、2022 年は 7 月第 3 週と、コロナ禍前と比べると、流行のピークの時期が不安定な状況となっている。

手足口病は、2022 年は、9 月第 1 週に、最高値 2.35 を示した。同じエンテロウイルス感染症であるヘルパンギーナについても、手足口病と、同時期、9 月第 1 週に、最高値 0.60 を示した。手足口病は、奇数年に隔年で流行するが、2021 年の報告数 7,851 は、直近で、流行した 2019 年の報告数 20,733 の 37.9%に過ぎない。2022 年も報告数が 6,434 で、感受性宿主群が多く残っている可能性があり、2023 年の動向に注視が必要である。

表 1. 定点あたり報告数の最高値が報告された週および最高値（2022 年）

大阪府				
	疾患	定点あたり報告数の最高値が報告された週	定点あたり報告数の最高値	警報レベル開始基準値
1	感染性胃腸炎	3 週（1 月第 3 週）	7.51	20
2	RS ウイルス感染症	29 週（7 月第 3 週）	7.30	—
3	手足口病	36 週（9 月第 1 週）	2.35	5
4	A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎	42, 43 週（10 月第 3, 4 週）	0.60	8
5	突発性発しん	22 週（5 月第 5 週）	0.44	—

A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、コロナ禍前は、二峰性の流行パターンを示していたが、新型コロナウイルス感染症が流行した 2020 年以降、低水準で推移しており、2022 年は 10 月第 3, 4 週に最高値 0.60 に達した。英国や米国の報告では、A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎の報告数の増加が報告されている。病原体側の変化について不明であるが、宿主側の要因として、他の感染症同様、コロナ禍で感染者が激減しているため、感受性宿主群が多くなっていることが考えられる。

突発性発しんは、2022 年は 5 月第 5 週に最高値 0.44 に達した。2022 年の報告数は 2,590 であり、2021 年よりも 21.7%減であった。

2021 年と 2022 年における感染症発生動向の増減を比較すると、小児科定点疾患の総計は 64,681 であり、前年比 14.6%減であった。インフルエンザ、流行性角結膜炎以外は、減少もしくは増減なしであった。インフルエンザは、前年比 37.1 倍の増加であった。減少率で一番大きかったのは、RS ウイルス感染症で前年比 23.3%減、次いで、突発性発しんで 21.7%、ヘルパンギーナで 21.0%、流行性耳下腺炎で 19.2%と続く（表 2）。基幹定点疾患である、細菌性髄膜炎、マイコプラズマ肺炎、感染性胃腸炎（ロタウイルス）は、報告数が非常に少ない状況が続いている。2023 年 3 月 13 日以降、マスク着用の自由化、行動緩和、規制緩和が進むと、感染症に関する報告数やピークの時期などの発生動向は、コロナ禍前の状況になる可能性がある。

（文責：本村）

表2. 2022年と2021年における感染症発生動向比較

インフルエンザ定点疾患	2022年	2021年
インフルエンザ ↑	3,581	94

小児科定点疾患	2022年	2021年
RSウイルス感染症 ↓	12,319	16,058
咽頭結膜熱 ↓	2,155	2,237
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 ↓	3,290	4,855
感染性胃腸炎 ↓	34,675	37,353
水痘 ↓	741	960
手足口病 ↓	6,434	7,851
伝染性紅斑 ↓	102	111
突発性発しん ↓	2,590	3,307
ヘルパンギーナ ↓	1,988	2,517
流行性耳下腺炎 ↓	387	479
合計	64,681	75,728

眼科定点疾患	2022年	2021年
急性出血性結膜炎	15	15
流行性角結膜炎 ↑	321	282
合計	336	297

基幹定点疾患	2022年	2021年
細菌性髄膜炎 ↓	5	10
無菌性髄膜炎	16	16
マイコプラズマ肺炎 ↓	3	5
クラミジア肺炎（オウム病を除く）	0	0
感染性胃腸炎（ロタウイルス） ↓	3	5
合計	27	36

3) 感染症別・ブロック別患者報告状況

大阪府内を11ブロック（1. 豊能、2. 三島、3. 北河内、4. 中河内、5. 南河内、6. 堺市、7. 泉州、8. 大阪市北部、9. 大阪市西部、10. 大阪市東部、11. 大阪市南部）に分け、各ブロックの構成市町村、定点数、人口、出生数を解析評価した。感染症別に、地域の定点あたり年平均報告数を表に要約した。1年間でより流行が認められた地域を黄色で示した。年平均の定点あたり報告数から地域ブロックを評価した場合、中河内（A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、突発性発疹）、南河内（感染性胃腸炎、手足口病）、大阪市北部（RSウイルス感染症、インフルエンザ、ヘルパンギーナ）、大阪市南部（咽頭結膜熱）で、首位を占めていた（表）。一方、豊能ブロックは2疾患（A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、咽頭結膜熱）、三島は2疾患（RSウイルス感染症、インフルエンザ）で、最下位であった。（文責：本村）

表. 感染症別・ブロック別患者報告状況

感染性胃腸炎		RSウイルス感染症		手足口病		A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	
豊能	2.91	豊能	0.79	豊能	0.45	豊能	0.09
三島	3.20	三島	0.77	三島	0.72	三島	0.19
北河内	3.21	北河内	1.19	北河内	0.63	北河内	0.28
中河内	4.37	中河内	0.78	中河内	0.68	中河内	0.79
南河内	5.39	南河内	1.75	南河内	1.03	南河内	0.22
堺市	3.04	堺市	1.25	堺市	0.67	堺市	0.24
泉州	3.43	泉州	1.24	泉州	0.48	泉州	0.49
大阪市北部	3.43	大阪市北部	2.28	大阪市北部	0.65	大阪市北部	0.23
大阪市西部	3.18	大阪市西部	1.74	大阪市西部	0.51	大阪市西部	0.16
大阪市東部	1.46	大阪市東部	1.10	大阪市東部	0.40	大阪市東部	0.12
大阪市南部	3.58	大阪市南部	1.06	大阪市南部	0.73	大阪市南部	0.61
府内平均	3.40	府内平均	1.21	府内平均	0.63	府内平均	0.32

突発性発疹		インフルエンザ		咽頭結膜熱		ヘルパンギーナ	
豊能	0.25	豊能	0.09	豊能	0.11	豊能	0.18
三島	0.17	三島	0.05	三島	0.14	三島	0.23
北河内	0.30	北河内	0.20	北河内	0.20	北河内	0.24
中河内	0.37	中河内	0.25	中河内	0.18	中河内	0.10
南河内	0.35	南河内	0.23	南河内	0.22	南河内	0.19
堺市	0.15	堺市	0.33	堺市	0.19	堺市	0.13
泉州	0.26	泉州	0.21	泉州	0.30	泉州	0.23
大阪市北部	0.28	大阪市北部	0.42	大阪市北部	0.29	大阪市北部	0.28
大阪市西部	0.20	大阪市西部	0.35	大阪市西部	0.21	大阪市西部	0.23
大阪市東部	0.15	大阪市東部	0.28	大阪市東部	0.18	大阪市東部	0.18
大阪市南部	0.24	大阪市南部	0.26	大阪市南部	0.32	大阪市南部	0.17
府内平均	0.25	府内平均	0.23	府内平均	0.21	府内平均	0.19

（黄色は最高ブロックと定点あたり報告数、網掛けは最低ブロックと定点あたり報告数）

4) 感染症別・年齢別患者報告状況

インフルエンザ定点、基幹定点を除いた小児科定点における年齢報告数で最も多かった年齢は 1 歳台、次いで 20 歳以上、10-14 歳台、と続く。1 歳台の報告数の多い疾患は、RS ウイルス感染症、咽頭結膜熱、感染性胃腸炎、手足口病、突発性発しん、ヘルパンギーナ、であった。20 歳以上の報告数の多い疾患は、インフルエンザ、急性出血性結膜炎、流行性角結膜炎である。10-14 歳台の報告数の多い疾患は、水痘、流行性耳下腺炎であった。

例年、10-14 歳台の報告数が多い疾患が水痘だけであるが、2022 年は流行性耳下腺炎も 10-14 歳台に多かった。

(文責：本村)

表. 定点あたり報告数の最高値が報告された年齢区分

疾患名	最高値が報告された年齢区分
インフルエンザ	20 歳以上
R S ウイルス感染症	1 歳台
咽頭結膜熱	1 歳台
A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎	3 歳台
感染性胃腸炎	1 歳台
水痘	10～14 歳台
手足口病	1 歳台
伝染性紅斑	2 歳台
突発性発しん	1 歳台
ヘルパンギーナ	1 歳台
流行性耳下腺炎	10-14 歳台
急性出血性結膜炎	20 歳以上
流行性角結膜炎	20 歳以上

2022年 感染症別・週別報告状況（全国集計）

	1月					2月					3月			
	1週	2週	3週	4週	5週	6週	7週	8週	9週	10週	11週	12週	13週	
インフルエンザ	50	53	71	59	75	37	26	53	21	18	17	14	15	
RSウイルス感染症	886	967	1,581	1,532	1,067	837	733	540	633	601	574	433	391	
咽頭結膜熱	777	578	628	446	534	410	416	322	328	306	302	230	214	
A群溶血性链球菌咽頭炎	1,223	1,451	1,771	1,484	1,246	987	985	855	790	824	866	635	697	
感染性胃腸炎	14,655	20,767	25,394	22,148	18,064	14,360	13,743	11,559	11,849	11,861	11,172	8,807	8,848	
水痘	441	299	292	249	190	181	199	193	216	180	209	168	204	
手足口病	1,171	1,027	1,008	816	612	422	284	238	198	174	212	177	185	
伝染性紅斑	30	42	48	43	42	38	31	54	42	31	43	33	47	
突発性発しん	822	1,001	936	788	758	720	747	639	756	759	825	806	900	
ヘルパンギーナ	189	224	237	148	92	70	63	51	65	56	41	37	33	
流行性耳下腺炎	68	85	77	74	84	54	73	75	61	88	88	65	82	
急性出血性結膜炎	4	2	3	3	7	1	2	5	2	2	4	2	3	
流行性角結膜炎	134	127	118	121	113	83	93	79	103	95	82	63	99	
細菌性髄膜炎	5	5	6	6	9	6	4	6	4	6	5	5	6	
無菌性髄膜炎	6	5	11	4	5	4	4	4	4	9	9	6	7	
マイコプラズマ肺炎	3	5	5	6	3	4	9	3	4	7	5	3	8	
クラミジア肺炎（オウム病を除く）		1		1				2	1	1			2	
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	3	6	4	5	4	3	3	2	3	3	4	1	3	

	7月				8月					9月			
	27週	28週	29週	30週	31週	32週	33週	34週	35週	36週	37週	38週	39週
インフルエンザ	48	175	187	145	160	113	138	138	135	133	111	80	52
RSウイルス感染症	4,783	7,184	7,248	7,450	7,302	5,095	4,108	3,947	4,583	5,029	5,047	3,926	3,745
咽頭結膜熱	1,185	1,096	623	544	398	259	226	231	219	190	215	137	168
A群溶血性链球菌咽頭炎	1,248	1,318	826	889	881	614	568	659	892	899	960	797	1,038
感染性胃腸炎	14,389	13,306	9,487	8,613	7,460	5,151	5,213	6,081	6,627	6,791	6,787	5,177	6,327
水痘	215	241	214	207	195	159	174	151	169	160	213	138	192
手足口病	4,502	5,902	6,802	9,494	10,461	8,583	8,502	10,518	11,737	11,886	10,816	7,126	6,251
伝染性紅斑	32	39	32	60	38	19	32	16	47	36	54	34	26
突発性発しん	1,229	1,173	955	884	903	680	656	744	839	856	863	706	848
ヘルパンギーナ	1,069	1,610	1,700	2,367	2,470	1,932	1,579	2,478	2,805	2,768	2,554	1,361	1,419
流行性耳下腺炎	115	112	93	78	74	56	73	95	97	111	111	93	113
急性出血性結膜炎	2	6	7	1	1		5	1	2	6	5	4	7
流行性角結膜炎	166	145	140	156	122	84	119	144	152	131	159	131	116
細菌性髄膜炎	6	5	5	4	2	8	7	11	8	7	7	4	5
無菌性髄膜炎	17	10	11	12	9	8	2	10	6	5	7	9	12
マイコプラズマ肺炎	7	5	3	7	5	9	6	12	4	5	9	5	5
クラミジア肺炎（オウム病を除く）					2					1	3	2	
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	1				2	1	1	3	3	1	1	1	4

報告数が0の場合には空白としている

I 五類定点把握感染症（性感染症を除く）

4月				5月					6月			
14週	15週	16週	17週	18週	19週	20週	21週	22週	23週	24週	25週	26週
16	6	18	8	11	6	4	8	2	7	6	6	12
315	410	420	446	306	298	548	643	698	844	1,353	1,861	2,995
233	223	308	390	360	554	571	997	1,144	1,314	1,301	1,347	1,364
664	786	908	752	574	846	1,020	948	1,091	1,078	1,174	1,100	1,032
9,233	11,190	12,933	11,700	8,385	13,131	15,587	16,722	16,790	17,159	18,002	16,757	15,059
209	214	225	213	225	262	226	269	274	251	260	262	287
213	277	379	446	338	385	583	628	744	807	1,133	1,884	3,067
44	46	41	33	45	46	42	32	41	26	41	45	49
923	1,032	1,197	1,219	973	1,155	1,270	1,272	1,302	1,286	1,205	1,271	1,294
50	41	34	53	47	71	97	90	123	166	252	451	767
54	99	121	86	76	112	121	123	128	127	102	114	131
1	4	1	5		4	2	2	2	1	11	2	6
106	95	105	97	116	119	109	118	136	148	134	123	154
7	2	5	6	6	10	5	8	5	5	4	8	3
6	5	6	9	8	7	10	10	7	10	12	12	10
7	10	5	6	5	9	10	8	8	8	7	9	8
2	2	1			2	1		1				
	2	4	5	1	2	2	1			1	1	3

10月					11月				12月				合計
40週	41週	42週	43週	44週	45週	46週	47週	48週	49週	50週	51週	52週	
71	97	111	159	274	412	556	548	638	1,246	2,618	6,136	10,420	25,520
3,544	3,064	3,113	2,945	2,708	2,467	2,345	1,842	1,584	1,713	1,507	1,257	885	120,333
156	148	201	227	249	276	263	306	430	421	499	587	419	25,270
1,187	1,113	1,316	1,387	1,191	1,287	1,249	1,111	1,165	1,164	1,333	1,186	794	52,859
6,201	6,221	6,993	7,496	7,675	8,773	10,136	10,138	12,036	13,802	15,654	17,653	12,922	612,984
191	183	236	274	271	394	357	379	359	358	338	323	217	12,506
5,355	4,171	3,663	2,889	2,374	2,018	1,730	1,521	1,380	1,279	1,014	894	540	158,816
21	34	22	29	46	24	30	25	27	28	28	31	20	1,885
772	739	781	774	802	842	797	815	787	738	761	679	531	47,010
1,268	878	1,026	756	646	580	565	594	585	529	400	324	215	38,026
96	90	106	86	102	106	108	131	112	115	132	97	57	4,927
4	1	5	3	2		1		7	6	14	11	4	186
132	139	159	147	130	147	136	135	160	160	130	169	107	6,486
8	3	8	9	7	9	3	7	6	7	5	5	2	305
13	7	12	5	14	11	10	6	11	9	10	4	7	427
11	11	8	10	14	12	13	7	11	9	13	15	8	389
1					1	1	1		1	1		1	32
	1		2		1	1	2	2			2	3	98

2022年 感染症別・週別定点あたり報告状況（全国集計）

	1月					2月				3月			
	1週	2週	3週	4週	5週	6週	7週	8週	9週	10週	11週	12週	13週
インフルエンザ	0.01	0.01	0.01	0.01	0.02	0.01	0.01	0.01					
RSウイルス感染症	0.28	0.31	0.50	0.50	0.34	0.27	0.23	0.17	0.20	0.19	0.18	0.14	0.12
咽頭結膜熱	0.25	0.19	0.20	0.14	0.17	0.13	0.13	0.10	0.11	0.10	0.10	0.07	0.07
A群溶血性連鎖球菌咽頭炎	0.39	0.47	0.56	0.48	0.40	0.31	0.31	0.27	0.25	0.26	0.28	0.20	0.22
感染性胃腸炎	4.67	6.74	8.08	7.20	5.77	4.56	4.38	3.67	3.80	3.77	3.56	2.80	2.82
水痘	0.14	0.10	0.09	0.08	0.06	0.06	0.06	0.06	0.07	0.06	0.07	0.05	0.06
手足口病	0.37	0.33	0.32	0.27	0.20	0.13	0.09	0.08	0.06	0.06	0.07	0.06	0.06
伝染性紅斑	0.01	0.01	0.02	0.01	0.01	0.01	0.01	0.02	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01
突発性発しん	0.26	0.33	0.30	0.26	0.24	0.23	0.24	0.20	0.24	0.24	0.26	0.26	0.29
ヘルパンギーナ	0.06	0.07	0.08	0.05	0.03	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.01	0.01	0.01
流行性耳下腺炎	0.02	0.03	0.02	0.02	0.03	0.02	0.02	0.02	0.02	0.03	0.03	0.02	0.03
急性出血性結膜炎	0.01				0.01			0.01			0.01		
流行性角結膜炎	0.19	0.19	0.17	0.18	0.16	0.12	0.13	0.11	0.15	0.14	0.12	0.09	0.14
細菌性髄膜炎	0.01	0.01	0.01	0.01	0.02	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01
無菌性髄膜炎	0.01	0.01	0.02	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.02	0.02	0.01	0.01
マイコプラズマ肺炎	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.02	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.02
クラミジア肺炎（オウム病を除く）													
感染性胃腸炎（ロタウイルス）	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01		0.01	0.01	0.01		0.01

	7月				8月					9月			
	27週	28週	29週	30週	31週	32週	33週	34週	35週	36週	37週	38週	39週
インフルエンザ	0.01	0.04	0.04	0.03	0.03	0.02	0.03	0.03	0.03	0.03	0.02	0.02	0.01
RSウイルス感染症	1.52	2.30	2.30	2.37	2.33	1.65	1.32	1.26	1.46	1.60	1.60	1.25	1.19
咽頭結膜熱	0.38	0.35	0.20	0.17	0.13	0.08	0.07	0.07	0.07	0.06	0.07	0.04	0.05
A群溶血性連鎖球菌咽頭炎	0.40	0.42	0.26	0.28	0.28	0.20	0.18	0.21	0.28	0.29	0.31	0.25	0.33
感染性胃腸炎	4.56	4.25	3.02	2.74	2.38	1.67	1.67	1.94	2.11	2.16	2.16	1.64	2.01
水痘	0.07	0.08	0.07	0.07	0.06	0.05	0.06	0.05	0.05	0.05	0.07	0.04	0.06
手足口病	1.43	1.89	2.16	3.02	3.34	2.78	2.73	3.35	3.73	3.77	3.44	2.26	1.99
伝染性紅斑	0.01	0.01	0.01	0.02	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.02	0.01	0.01
突発性発しん	0.39	0.37	0.30	0.28	0.29	0.22	0.21	0.24	0.27	0.27	0.27	0.22	0.27
ヘルパンギーナ	0.34	0.51	0.54	0.75	0.79	0.63	0.51	0.79	0.89	0.88	0.81	0.43	0.45
流行性耳下腺炎	0.04	0.04	0.03	0.02	0.02	0.02	0.02	0.03	0.03	0.04	0.04	0.03	0.04
急性出血性結膜炎		0.01	0.01				0.01			0.01	0.01	0.01	0.01
流行性角結膜炎	0.24	0.21	0.20	0.22	0.18	0.12	0.17	0.21	0.22	0.19	0.23	0.19	0.17
細菌性髄膜炎	0.01	0.01	0.01	0.01		0.02	0.01	0.02	0.02	0.01	0.01	0.01	0.01
無菌性髄膜炎	0.04	0.02	0.02	0.03	0.02	0.02		0.02	0.01	0.01	0.01	0.02	0.03
マイコプラズマ肺炎	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.02	0.01	0.03	0.01	0.01	0.02	0.01	0.01
クラミジア肺炎（オウム病を除く）											0.01		
感染性胃腸炎（ロタウイルス）								0.01	0.01				0.01

報告数が0の場合には空白としている

I 五類定点把握感染症（性感染症を除く）

4月				5月					6月			
14週	15週	16週	17週	18週	19週	20週	21週	22週	23週	24週	25週	26週
0.10	0.13	0.13	0.14	0.10	0.09	0.17	0.20	0.22	0.27	0.43	0.59	0.95
0.07	0.07	0.10	0.12	0.11	0.18	0.18	0.32	0.36	0.42	0.41	0.43	0.43
0.21	0.25	0.29	0.24	0.18	0.27	0.32	0.30	0.35	0.34	0.37	0.35	0.33
2.94	3.56	4.11	3.74	2.67	4.17	4.95	5.32	5.33	5.44	5.72	5.31	4.78
0.07	0.07	0.07	0.07	0.07	0.08	0.07	0.09	0.09	0.08	0.08	0.08	0.09
0.07	0.09	0.12	0.14	0.11	0.12	0.19	0.20	0.24	0.26	0.36	0.60	0.97
0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.02
0.29	0.33	0.38	0.39	0.31	0.37	0.40	0.40	0.41	0.41	0.38	0.40	0.41
0.02	0.01	0.01	0.02	0.01	0.02	0.03	0.03	0.04	0.05	0.08	0.14	0.24
0.02	0.03	0.04	0.03	0.02	0.04	0.04	0.04	0.04	0.04	0.03	0.04	0.04
	0.01		0.01		0.01					0.02		0.01
0.15	0.14	0.15	0.14	0.17	0.17	0.16	0.17	0.20	0.21	0.19	0.18	0.22
0.01		0.01	0.01	0.01	0.02	0.01	0.02	0.01	0.01	0.01	0.02	0.01
0.01	0.01	0.01	0.02	0.02	0.01	0.02	0.02	0.01	0.02	0.03	0.03	0.02
0.01	0.02	0.01	0.01	0.01	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.01	0.02	0.02
		0.01	0.01									0.01

10月					11月				12月				平均
40週	41週	42週	43週	44週	45週	46週	47週	48週	49週	50週	51週	52週	
0.01	0.02	0.02	0.03	0.06	0.08	0.11	0.11	0.13	0.25	0.53	1.24	2.14	0.10
1.13	0.97	0.99	0.94	0.86	0.78	0.75	0.58	0.50	0.54	0.48	0.40	0.29	0.74
0.05	0.05	0.06	0.07	0.08	0.09	0.08	0.10	0.14	0.13	0.16	0.19	0.14	0.15
0.38	0.35	0.42	0.44	0.38	0.41	0.40	0.35	0.37	0.37	0.42	0.38	0.26	0.32
1.98	1.98	2.23	2.39	2.44	2.79	3.22	3.22	3.82	4.38	4.97	5.60	4.17	3.76
0.06	0.06	0.08	0.09	0.09	0.13	0.11	0.12	0.11	0.11	0.11	0.10	0.07	0.08
1.71	1.32	1.17	0.92	0.76	0.64	0.55	0.48	0.44	0.41	0.32	0.28	0.17	0.97
0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01
0.25	0.23	0.25	0.25	0.26	0.27	0.25	0.26	0.25	0.23	0.24	0.22	0.17	0.29
0.40	0.28	0.33	0.24	0.21	0.18	0.18	0.19	0.19	0.17	0.13	0.10	0.07	0.23
0.03	0.03	0.03	0.03	0.03	0.03	0.03	0.04	0.04	0.04	0.04	0.03	0.02	0.03
0.01		0.01						0.01	0.01	0.02	0.02	0.01	0.01
0.19	0.20	0.23	0.21	0.19	0.21	0.20	0.19	0.23	0.23	0.19	0.24	0.16	0.18
0.02	0.01	0.02	0.02	0.01	0.02	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01		0.01
0.03	0.01	0.03	0.01	0.03	0.02	0.02	0.01	0.02	0.02	0.02	0.01	0.01	0.02
0.02	0.02	0.02	0.02	0.03	0.03	0.03	0.01	0.02	0.02	0.03	0.03	0.02	0.02
													0.00
												0.01	0.00

2022年 感染症別・週別報告状況（大阪府内集計）

		1月					2月				3月			
		1週	2週	3週	4週	5週	6週	7週	8週	9週	10週	11週	12週	13週
定点数	インフルエンザ*	300	300	300	300	300	300	300	300	300	300	300	299	299
	小児科	197	197	197	197	197	197	197	197	197	197	197	196	196
	眼科	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52
	基幹	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16
インフルエンザ		4	5	7	8	5	4		1	8		1	2	1
RSウイルス感染症		61	49	58	73	51	18	21	31	17	16	20	11	18
咽頭結膜炎		43	39	23	19	29	26	15	15	22	21	22	12	20
A群溶血性链球菌咽頭炎		54	65	56	51	45	35	33	33	51	22	29	29	53
感染性胃腸炎		1,131	1,477	1,479	1,111	822	541	532	483	500	476	458	354	361
水痘		23	18	19	17	9	2	10	7	12	14	6	12	7
手足口病		38	49	29	22	8	5	1	1	4	2	4	2	
伝染性紅斑		1	1	3	1	2	2	3	5	4	2	2	1	2
突発性発しん		48	50	46	30	32	35	45	18	25	36	48	47	57
ヘルパンギーナ		9	2	6	6	3	3	1	2	2	2	3	1	3
流行性耳下腺炎		3	4	2	6	9	1	7	3	4	5	6	4	5
急性出血性結膜炎				1	1	1				1				1
流行性角結膜炎		3	5	4	7	3	2		1	1	1	2	4	4
合計（RSウイルス-流行性角結）		1,414	1,759	1,726	1,344	1,014	670	668	599	643	597	600	477	531
細菌性髄膜炎														
無菌性髄膜炎														1
マイコプラズマ肺炎														
クラミジア肺炎（カラム菌を除く）														
感染性胃腸炎(ロタウイルス)					1									
合計（細菌性髄-0771人）					1									1

		7月				8月					9月			
		27週	28週	29週	30週	31週	32週	33週	34週	35週	36週	37週	38週	39週
定点数	インフルエンザ*	300	300	300	300	300	300	301	301	301	300	300	300	300
	小児科	196	196	196	196	196	196	197	197	197	196	196	196	196
	眼科	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52
	基幹	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16
インフルエンザ		17	107	105	57	21	8	8	9	4	6	3	10	4
RSウイルス感染症		855	1,351	1,430	1,283	1,214	818	538	464	419	481	431	203	164
咽頭結膜炎		103	91	63	74	34	16	15	25	14	23	12	9	20
A群溶血性链球菌咽頭炎		104	62	43	55	48	41	24	42	50	52	60	65	71
感染性胃腸炎		1,024	908	633	573	450	304	291	380	420	458	390	343	358
水痘		10	12	6	13	6	11	13	6	12	14	14	10	16
手足口病		106	101	92	137	138	130	157	322	359	461	459	367	410
伝染性紅斑		1	4	2	2		2	2	3	2	7	2	2	3
突発性発しん		60	68	63	39	51	41	31	34	40	59	40	49	44
ヘルパンギーナ		21	26	27	45	44	57	45	83	92	118	116	86	107
流行性耳下腺炎		6	11	10	6	5	1	7	7	9	12	13	8	11
急性出血性結膜炎											1	1		
流行性角結膜炎		15	11	11	15	9	3	3	14	13	4	9	3	2
合計（RSウイルス-流行性角結）		2,305	2,645	2,380	2,242	1,999	1,424	1,126	1,380	1,430	1,690	1,547	1,145	1,206
細菌性髄膜炎			1			1					1	2		
無菌性髄膜炎		1		1	1	1		1						
マイコプラズマ肺炎												1		
クラミジア肺炎（カラム菌を除く）														
感染性胃腸炎(ロタウイルス)									1					
合計（細菌性髄-0771人）		1	1	1	1	2		1	1		1	3		

報告数が0の場合には空白としている

I 五類定点把握感染症（性感染症を除く）

4月				5月					6月			
14週	15週	16週	17週	18週	19週	20週	21週	22週	23週	24週	25週	26週
300	300	300	300	300	300	300	300	298	299	299	299	299
197	197	197	197	197	197	197	197	195	196	196	196	196
51	51	51	51	51	51	51	51	51	51	51	51	51
16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16
				1					1			1
5	28	49	49	29	35	58	77	83	97	173	289	561
15	19	37	36	38	68	75	130	107	149	161	142	128
52	54	62	48	40	63	78	60	102	72	96	78	58
380	494	568	596	544	776	906	1,018	1,029	1,216	1,254	1,129	1,039
12	13	8	7	9	16	13	21	18	15	14	19	16
2	6	12	12	7	11	9	27	22	13	16	25	60
5	1	3	2	3	2	1	2	2	1	1	1	1
59	56	84	73	76	73	71	64	85	63	58	59	53
5	2	1	1	3	5	3	5	6	11	7	6	11
6	6	4	7	5	6	8	9	7	11	7	7	9
					1	1						2
2	2	6	2	8	7	9	4	3	11	13	5	13
543	681	834	833	762	1,063	1,232	1,417	1,464	1,659	1,800	1,760	1,951
1		1	1	1				1				
		1										
1		2	1	1				1				

10月				11月				12月				合計	
40週	41週	42週	43週	44週	45週	46週	47週	48週	49週	50週	51週		52週
300	300	300	300	300	300	300	300	300	300	300	300	299	15594
196	196	196	196	196	196	196	196	196	196	196	196	195	10212
52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	2691
16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	832
5	14	23	24	108	148	157	148	112	201	247	671	1,314	3,581
137	111	77	54	44	54	43	28	34	27	26	27	29	12,319
11	7	19	14	13	15	16	18	28	25	26	32	21	2,155
85	110	117	117	106	93	83	89	69	82	74	71	58	3,290
386	345	400	388	422	474	571	588	657	724	824	956	734	34,675
11	14	17	10	18	18	38	26	23	20	26	24	16	741
414	380	341	251	245	214	188	170	166	181	122	86	50	6,434
	1	1	1	3		2		2	1	3	1	1	102
31	45	47	38	57	50	48	47	52	50	37	38	40	2,590
97	77	108	93	91	82	85	72	81	80	64	53	29	1,988
6	9	9	11	9	11	10	20	8	13	12	7	5	387
									1	2	1		15
9	7	7	7	5	10	5	10	6	4	4	9	4	321
1,187	1,106	1,143	984	1,013	1,021	1,089	1,068	1,126	1,208	1,220	1,305	987	65,017
													5
2	2			1									16
			2										3
													3
2	2		2	1									27

2022年 感染症別・週別定点あたり報告状況（大阪府内集計）

	1月					2月				3月			
	1週	2週	3週	4週	5週	6週	7週	8週	9週	10週	11週	12週	13週
定点数	300	300	300	300	300	300	300	300	300	300	300	299	299
インフルエンザ	0.01	0.02	0.02	0.03	0.02	0.01		0.00	0.03		0.00	0.01	0.00
RSウイルス感染症	0.31	0.25	0.29	0.37	0.26	0.09	0.11	0.16	0.09	0.08	0.10	0.06	0.09
咽頭結膜熱	0.22	0.20	0.12	0.10	0.15	0.13	0.08	0.08	0.11	0.11	0.11	0.06	0.10
A群溶血性链球菌咽頭炎	0.27	0.33	0.28	0.26	0.23	0.18	0.17	0.17	0.26	0.11	0.15	0.15	0.27
感染性胃腸炎	5.74	7.50	7.51	5.64	4.17	2.75	2.70	2.45	2.54	2.42	2.32	1.81	1.84
水痘	0.12	0.09	0.10	0.09	0.05	0.01	0.05	0.04	0.06	0.07	0.03	0.06	0.04
手足口病	0.19	0.25	0.15	0.11	0.04	0.03	0.01	0.01	0.02	0.01	0.02	0.01	
伝染性紅斑	0.01	0.01	0.02	0.01	0.01	0.01	0.02	0.03	0.02	0.01	0.01	0.01	0.01
突発性発しん	0.24	0.25	0.23	0.15	0.16	0.18	0.23	0.09	0.13	0.18	0.24	0.24	0.29
ヘルパンギーナ	0.05	0.01	0.03	0.03	0.02	0.02	0.01	0.01	0.01	0.01	0.02	0.01	0.02
流行性耳下腺炎	0.02	0.02	0.01	0.03	0.05	0.01	0.04	0.02	0.02	0.03	0.03	0.02	0.03
急性出血性結膜炎			0.02	0.02	0.02				0.02				0.02
流行性角結膜炎	0.06	0.10	0.08	0.13	0.06	0.04		0.02	0.02	0.02	0.04	0.08	0.08
細菌性髄膜炎													
無菌性髄膜炎													0.06
マイコプラズマ肺炎													
クラミジア肺炎（わい病を除く）													
感染性胃腸炎（ロタウイルス）				0.06									

	7月				8月					9月			
	27週	28週	29週	30週	31週	32週	33週	34週	35週	36週	37週	38週	39週
定点数	300	300	300	300	300	300	301	301	301	300	300	300	300
インフルエンザ	0.06	0.36	0.35	0.19	0.07	0.03	0.03	0.03	0.01	0.02	0.01	0.03	0.01
RSウイルス感染症	4.36	6.89	7.30	6.55	6.19	4.17	2.73	2.36	2.13	2.45	2.20	1.04	0.84
咽頭結膜熱	0.53	0.46	0.32	0.38	0.17	0.08	0.08	0.13	0.07	0.12	0.06	0.05	0.10
A群溶血性链球菌咽頭炎	0.53	0.32	0.22	0.28	0.24	0.21	0.12	0.21	0.25	0.27	0.31	0.33	0.36
感染性胃腸炎	5.22	4.63	3.23	2.92	2.30	1.55	1.48	1.93	2.13	2.34	1.99	1.75	1.83
水痘	0.05	0.06	0.03	0.07	0.03	0.06	0.07	0.03	0.06	0.07	0.07	0.05	0.08
手足口病	0.54	0.52	0.47	0.70	0.70	0.66	0.80	1.63	1.82	2.35	2.34	1.87	2.09
伝染性紅斑	0.01	0.02	0.01	0.01		0.01	0.01	0.02	0.01	0.04	0.01	0.01	0.02
突発性発しん	0.31	0.35	0.32	0.20	0.26	0.21	0.16	0.17	0.20	0.30	0.20	0.25	0.22
ヘルパンギーナ	0.11	0.13	0.14	0.23	0.22	0.29	0.23	0.42	0.47	0.60	0.59	0.44	0.55
流行性耳下腺炎	0.03	0.06	0.05	0.03	0.03	0.01	0.04	0.04	0.05	0.06	0.07	0.04	0.06
急性出血性結膜炎										0.02	0.02		
流行性角結膜炎	0.29	0.21	0.21	0.29	0.17	0.06	0.06	0.27	0.25	0.08	0.17	0.06	0.04
細菌性髄膜炎		0.06			0.06					0.06	0.13		
無菌性髄膜炎	0.06		0.06	0.06	0.06		0.06						
マイコプラズマ肺炎											0.06		
クラミジア肺炎（わい病を除く）													
感染性胃腸炎（ロタウイルス）								0.06					

報告数が0の場合には空白としている

I 五類定点把握感染症（性感染症を除く）

4月				5月					6月			
14週	15週	16週	17週	18週	19週	20週	21週	22週	23週	24週	25週	26週
300	300	300	300	300	300	300	300	298	299	299	299	299
197	197	197	197	197	197	197	197	195	196	196	196	196
51	51	51	51	51	51	51	51	51	51	51	51	51
16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16
				0.00					0.00		0.00	0.00
0.03	0.14	0.25	0.25	0.15	0.18	0.29	0.39	0.43	0.49	0.88	1.47	2.86
0.08	0.10	0.19	0.18	0.19	0.35	0.38	0.66	0.55	0.76	0.82	0.72	0.65
0.26	0.27	0.31	0.24	0.20	0.32	0.40	0.30	0.52	0.37	0.49	0.40	0.30
1.93	2.51	2.88	3.03	2.76	3.94	4.60	5.17	5.28	6.20	6.40	5.76	5.30
0.06	0.07	0.04	0.04	0.05	0.08	0.07	0.11	0.09	0.08	0.07	0.10	0.08
0.01	0.03	0.06	0.06	0.04	0.06	0.05	0.14	0.11	0.07	0.08	0.13	0.31
0.03	0.01	0.02	0.01	0.02	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01
0.30	0.28	0.43	0.37	0.39	0.37	0.36	0.32	0.44	0.32	0.30	0.30	0.27
0.03	0.01	0.01	0.01	0.02	0.03	0.02	0.03	0.03	0.06	0.04	0.03	0.06
0.03	0.03	0.02	0.04	0.03	0.03	0.04	0.05	0.04	0.06	0.04	0.04	0.05
					0.02	0.02						0.04
0.04	0.04	0.12	0.04	0.16	0.14	0.18	0.08	0.06	0.22	0.25	0.10	0.25
0.06		0.06	0.06	0.06				0.06				
		0.06										

10月				11月					12月				平均
40週	41週	42週	43週	44週	45週	46週	47週	48週	49週	50週	51週	52週	
300	300	300	300	300	300	300	300	300	300	300	300	299	15594
196	196	196	196	196	196	196	196	196	196	196	196	195	10212
52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	2691
16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	832
0.02	0.05	0.08	0.08	0.36	0.49	0.52	0.49	0.37	0.67	0.82	2.24	4.39	0.23
0.70	0.57	0.39	0.28	0.22	0.28	0.22	0.14	0.17	0.14	0.13	0.14	0.15	1.21
0.06	0.04	0.10	0.07	0.07	0.08	0.08	0.09	0.14	0.13	0.13	0.16	0.11	0.21
0.43	0.56	0.60	0.60	0.54	0.47	0.42	0.45	0.35	0.42	0.38	0.36	0.30	0.32
1.97	1.76	2.04	1.98	2.15	2.42	2.91	3.00	3.35	3.69	4.20	4.88	3.76	3.40
0.06	0.07	0.09	0.05	0.09	0.09	0.19	0.13	0.12	0.10	0.13	0.12	0.08	0.07
2.11	1.94	1.74	1.28	1.25	1.09	0.96	0.87	0.85	0.92	0.62	0.44	0.26	0.63
	0.01	0.01	0.01	0.02		0.01		0.01	0.01	0.02	0.01	0.01	0.01
0.16	0.23	0.24	0.19	0.29	0.26	0.24	0.24	0.27	0.26	0.19	0.19	0.21	0.25
0.49	0.39	0.55	0.47	0.46	0.42	0.43	0.37	0.41	0.41	0.33	0.27	0.15	0.19
0.03	0.05	0.05	0.06	0.05	0.06	0.05	0.10	0.04	0.07	0.06	0.04	0.03	0.04
									0.02	0.04	0.02		0.01
0.17	0.13	0.13	0.13	0.10	0.19	0.10	0.19	0.12	0.08	0.08	0.17	0.08	0.12
													0.01
0.13	0.13			0.06									0.02
			0.13										0.00
													0.00

2022年 感染症別・ブロック別報告状況（大阪府内集計）

(ブロック別)		01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	合計
ブロック名		豊能	三島	北河内	中河内	南河内	堺市	泉州	大阪市北部	大阪市西部	大阪市東部	大阪市南部	
疾患名	定点数 *1 インフルエンザ*	1,794	1,286	2,101	1,612	1,248	1,507	1,697	1,040	780	1,125	1,404	15,594
	*2 小児科	1,196	870	1,321	1,040	832	987	1,021	728	520	761	936	10,212
	*3 眼科	260	208	312	260	208	260	299	260	104	312	208	2,691
	*4 基幹	104	104	104	104	52	104	52	52	52	52	52	832
*1	インフルエンザ	155	71	420	397	286	496	352	438	272	324	370	3,581
*2	RSウイルス感染症	940	676	1,554	808	1,457	1,233	1,269	1,658	907	824	993	12,319
	咽頭結膜熱	131	124	270	192	185	192	310	210	107	136	298	2,155
	A群溶血性链球菌咽頭炎	109	163	366	824	184	233	500	170	81	92	568	3,290
	感染性胃腸炎	3,478	2,782	4,255	4,543	4,486	3,003	3,522	2,498	1,656	1,105	3,347	34,675
	水痘	46	33	125	102	75	95	64	82	31	35	53	741
	手足口病	539	634	824	708	858	661	487	470	264	306	683	6,434
	伝染性紅斑	12	4	11	17	9	6	10	16	6	6	5	102
	突発性発疹	305	148	401	388	290	146	267	203	104	115	223	2,590
	ヘルパンギーナ	220	201	309	106	160	131	233	205	122	138	163	1,988
	流行性耳下腺炎	17	27	81	36	63	36	36	31	32	13	15	387
*3	急性出血性結膜炎			2	5			5	1	1	1		15
	流行性角結膜炎	19	40	32	44	9	22	49	17	7	45	37	321
合計（小児科、眼科定点把握）		5,816	4,832	8,230	7,773	7,776	5,758	6,752	5,561	3,318	2,816	6,385	65,017
*4	細菌性髄膜炎		3	1						1			5
	無菌性髄膜炎	2	3			2	8				1		16
	マイコプラズマ肺炎	2						1					3
	クラミジア肺炎（ワム病を除く）												
	感染性胃腸炎（ロタウイルス）	1	1				1						3
	合計（細菌性髄膜炎 －感染性胃腸炎（ロタウイルス））	5	7	1		2	9	1		1	1		27
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症		91	75	37	26	351	66	29	43	18		70	806
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症		5		1		20	10	32					68
薬剤耐性緑膿菌感染症		2		2									4
合計（メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 －薬剤耐性緑膿菌感染症）		98	75	40	26	371	76	61	43	18		70	878

*1 インフルエンザ定点把握疾患
 *2 小児科定点把握疾患
 *3 眼科定点把握疾患
 *4 基幹定点把握疾患
 報告数が0の場合には空白としている

2022年 感染症別・年齢別報告状況（大阪府内集計）

疾病名	(年齢別)																合計		
	6ヶ月未満	12ヶ月未満	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	15歳	20歳	30歳	40歳		50歳	60歳
*1 インフルエンザ	17	29	121	154	184	249	320	308	186	200	171	657	296	689				3,581	
RSウイルス感染症	1,170	1,650	3,791	2,840	1,664	735	295	84	21	18	11	17	2	21				12,319	
咽頭結膜熱	12	258	852	410	273	145	65	28	19	14	6	21	8	44				2,155	
A群溶血性レンカ球菌咽頭炎	6	38	189	279	472	428	373	263	216	181	144	369	82	250				3,290	
感染性胃腸炎	359	2,572	6,147	5,016	4,002	3,108	2,572	1,832	1,314	1,152	955	2,661	704	2,281				34,675	
水痘	10	27	61	39	49	55	69	51	67	59	78	139	17	20				741	
*2 手足口病	35	485	2,439	1,676	918	437	212	96	42	26	18	24	3	23				6,434	
伝染性紅斑	1	13	18	20	9	13	8	8	3	3	2	3		1				102	
突発性発しん	32	766	1,397	283	83	28	1											2,590	
ヘルパンギーナ	11	156	599	451	294	190	97	43	24	8	11	14	7	83				1,988	
流行性耳下腺炎		2	8	20	20	45	47	56	46	38	34	61	6	4				387	
*3 急性出血性結膜炎						1							1	13				15	
流行性角膜炎	1		8	6	8		6	1	4	3	3	10	22	249				321	
合計	1,637	5,967	15,509	11,040	7,792	5,185	3,745	2,462	1,756	1,502	1,262	3,319	852	2,989				65,017	
*4 細菌性髄膜炎																	2	3	5
無菌性髄膜炎				2						1			1	1	2		4	5	16
マイコプラズマ肺炎				1									1				1		3
クラミジア肺炎（オウム病を除く）																			
感染性胃腸炎（ロタウイルス）	1			1						1									3
合計（細菌性髄膜炎 －感染性胃腸炎（ロタウイルス））	1			4						2		1	1	1	2		7	8	27
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	30	6	6	4	3	3	2		1	3	5	6	14	20	28	40	58	577	806
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症		5	20	7	1								1		2	4	2	26	68
薬剤耐性緑膿菌感染症																	1	3	4
合計（メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 －薬剤耐性緑膿菌感染症）	30	11	26	11	4	3	2		1	3	5	7	14	20	30	44	61	606	878

*1 インフルエンザ定点把握疾患
 *2 小児科定点把握疾患
 *3 眼科定点把握疾患
 *4 基幹定点把握疾患
 報告数が0の場合には空白としている

2. 各感染症状況報告

1) インフルエンザ定点把握疾患

●インフルエンザ

令和 4 年（2022 年）のインフルエンザの患者発生は、第 35 週までは 2021/2022 年シーズンを第 36 週以降は 2022/2023 年シーズンが反映されている。令和 4 年のインフルエンザ定点からの累積報告数は、全国 25,520（定点当たり累積報告数 5.16）、大阪府 3,581（定点当たり累積報告数 11.94）であり、前年（2021 年）の累積報告数（全国 1,065、大阪府 94）を大幅に上回っているが、2020 年（全国 563,488、大阪府 42,963）や新型コロナウイルス感染症の国内流行が発生する以前の 2019 年（全国 1,876,083、大阪府 88,389）、2018 年（全国 1,898,941、大阪府 98,247）の累積報告数の水準には至っていない。2020 年の第 13 週以降は全国、大阪府共に定点当たり報告数が 1.00 を下回った状態が長期間継続していたが、2020 年第 51 週に漸く共にインフルエンザの流行開始の指標とされている 1.00 を超えた（全国 1.24、大阪府 2.24）（図）。

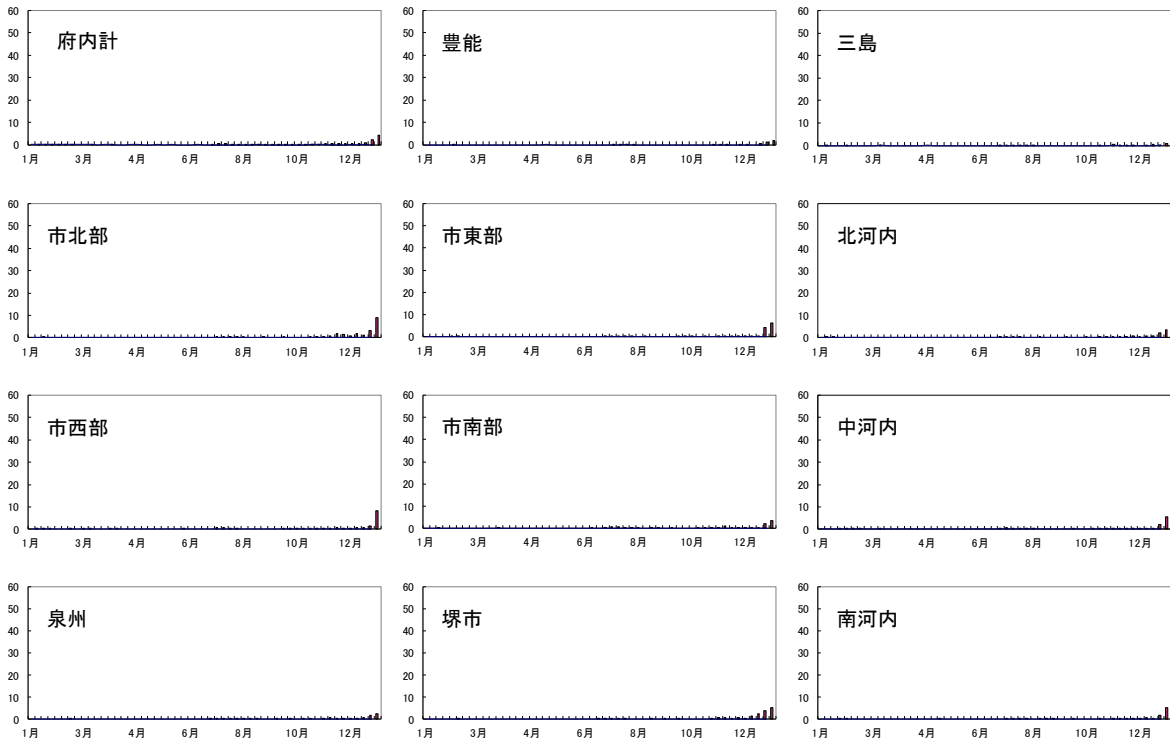
2022 年の国内のインフルエンザウイルス株の検出状況を見ると、総検出数は 238 株（AH1 亜型 6 株、AH3 亜型 229 株、B ビクトリア系統 3 株）であり、大半が AH3 であった（<https://www.niid.go.jp/niid/ja/iasr-inf.html>）。2021 年の検出数（6 株）よりは大幅に増加がみられているものの、2020 年の検出数（2,710 株）、2019 年の検出数（8,180 株）よりは大きく減少したままである。大阪府内からは 2022 年のインフルエンザの検出数は 6 株であり、全て AH3 亜型であった。

前述した通り、おそらく新型コロナウイルス感染症流行の影響により、2020 年第 13 週以降、全国、大阪府共にインフルエンザの流行がない状態が 2 年間以上続いていたが、2022 年第 51 週にインフルエンザの定点当たり報告数は共に 1.00 を上回り、32 か月ぶりに流行開始となった。2022 年に検出されたウイルスは全国、大阪府共に AH3 亜型が殆どであったが、これは欧米でのインフルエンザの流行とその流行株が反映されているものと思われる。

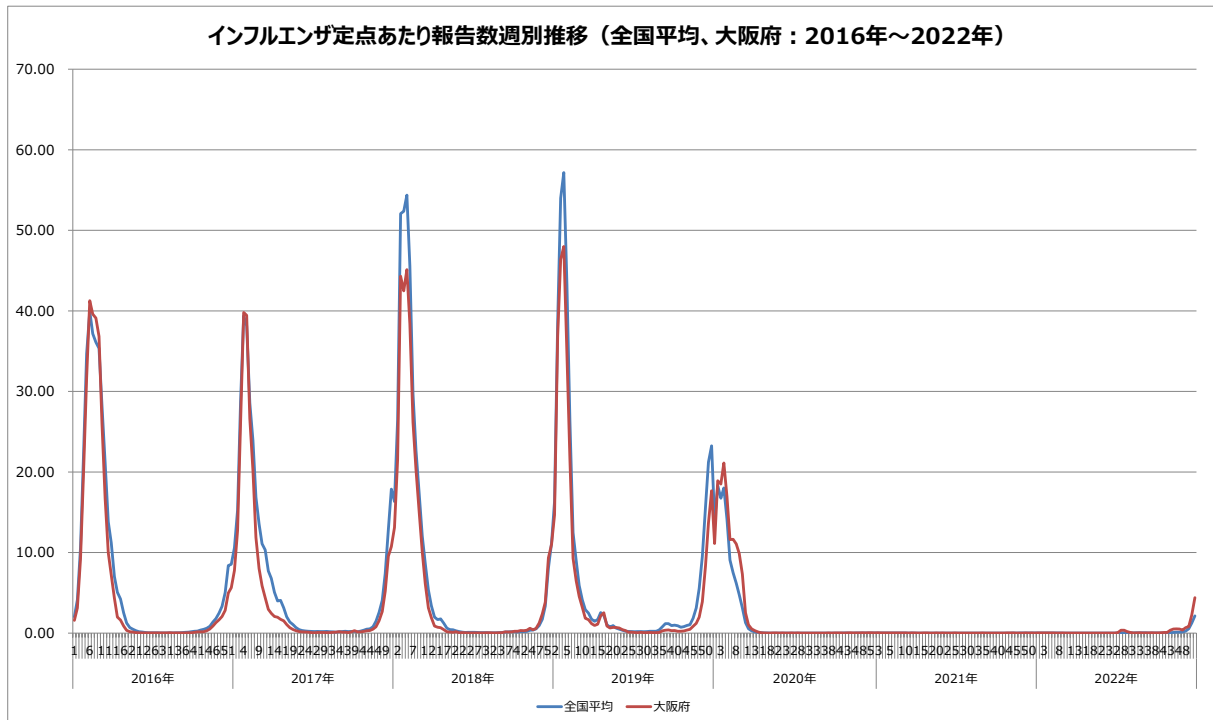
免疫保有者の割合の増加等により、新型コロナウイルス感染症の国民に与える影響が小さくなっていくにつれて、インフルエンザの流行はある程度大きなものとなると推察される。明確な予想は難しいが、今後インフルエンザの流行規模は、2023 年、2024 年と新型コロナの流行以前に近付いていく可能性が高いと思われる。（文責：安井）

インフルエンザ

線 (2021年第1週～第52週)
棒 (2022年第1週～第52週)



ブロック毎の定点あたり報告数の週別推移



2016年～2022年のインフルエンザ定点あたり報告数週別推移（全国平均、大阪府）

2) 小児科定点把握疾患

●RS ウイルス感染症

2022年のRSウイルス感染症の患者報告数は12,319例で、前年比23.3%減の報告数となり、小児科・眼科定点把握疾患総報告数の18.9%を占めた。定点あたり報告数の年平均は1.21で順位は第2位であった。

全国集計においては120,333例の報告で、前年比50.0%減、小児科・眼科定点把握疾患総報告数の11.1%を占めた。定点あたり報告数の年平均は0.74、順位は第3位であった。

週別(月別)の定点あたりの報告数は、第1週(1月)の0.31に始まり、以後増加し第4週(1月)に0.37と小さなピークを示した。その後減少し、第13週(3月)までは0.1前後で推移し、第14週(4月)には年間最低値の0.03となった。第16週(4月)から第19週(5月)にかけて0.2前後で推移した後、第20週(5月)からは増加し、第25週(6月)から第38週(9月)まで1.00を超えた。年間最高値は第29週(7月)の7.30であった。

全国集計の同報告数は、第1週(1月)の0.28に始まり、第3・第4週(1月)に0.50と小ピークを示した後減少し、第19週(5月)まで0.1-0.2の範囲で推移した。第20週(5月)以降上昇し、第27週(7月)から第40週まで1.0を超えた。年間最高値は第30週(7月)の2.37であった。

年齢別患者発生数は、1歳児の3,791例が最も多く、以下2歳児2,840例、3歳児の1,664例、6か月から12か月未満児の1,650例と続く。0歳児から2歳児で全体の76.7%を占めた。

ブロック別年間患者報告数の上位5ブロックは⑧大阪府北部(1,658例)、③北河内(1,554例)、⑤南河内(1,457例)、⑦泉州(1,269例)、⑥堺市(1,233例)であった。

ブロック別定点あたり年間平均報告数の上位5ブロックは⑧大阪市北部(2.28)、⑤南河内(1.75)、⑨大阪市西部(1.74)、⑥堺市(1.25)、⑦泉州(1.24)であった。

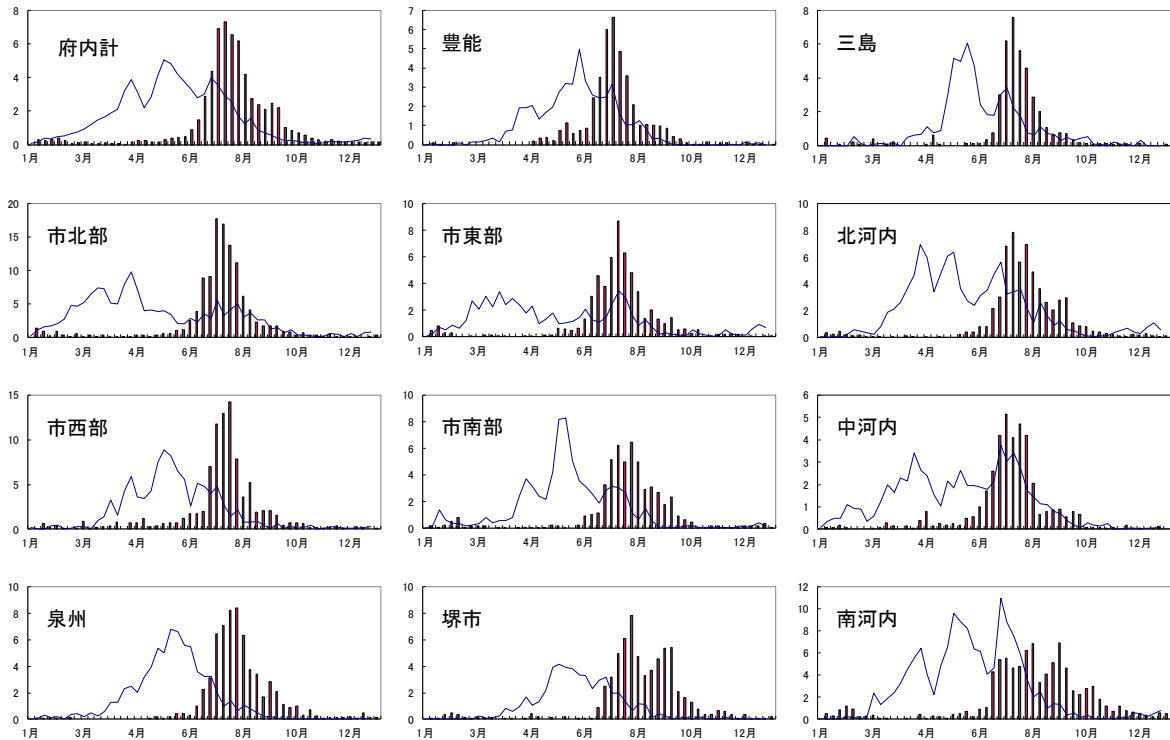
病原体定点医療機関からの検体数は前年比71%減の44件で、そのうち33検体(75.0%)からウイルスが検出された。内訳はRSウイルスA型が25例、RSウイルスB型が4例、ヒトメタニューモウイルス4例であった。

(文責：山本)

RS ウイルス感染症

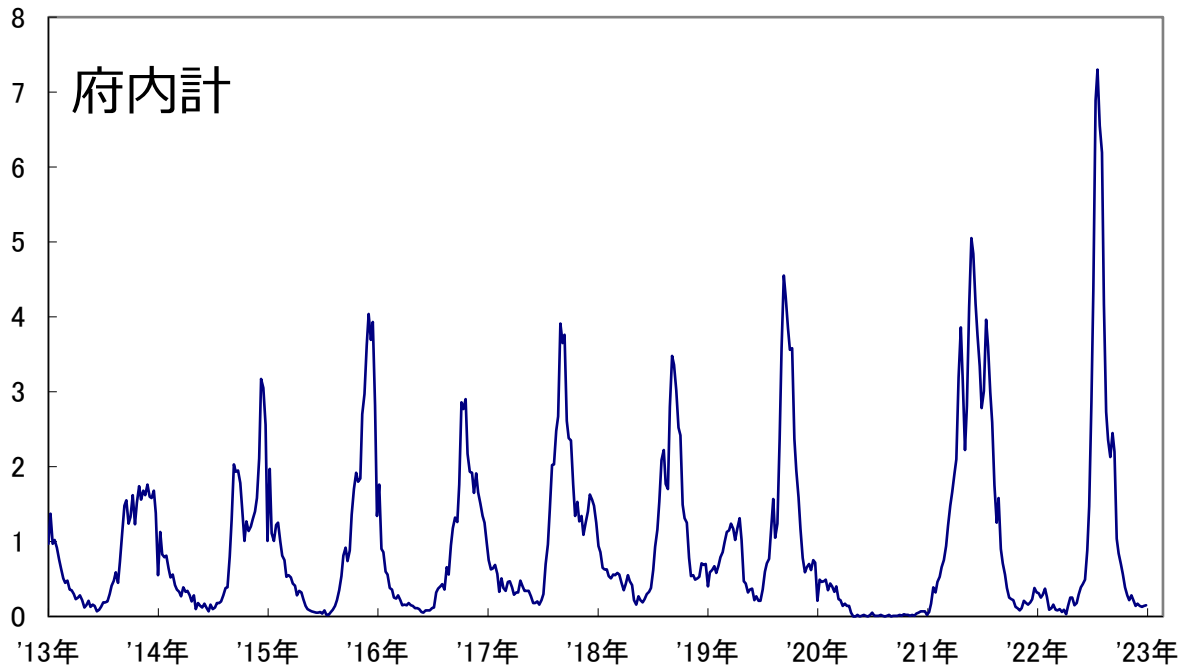
線（2021年第1週～第52週）

棒（2022年第1週～第52週）



ブロック毎の定点あたり報告数の週別推移

線（2013年1週～2022年52週）



定点あたりRSウイルス感染症報告数（府内計）の週別推移（10年グラフ）

●咽頭結膜熱

2022 年の咽頭結膜熱の患者報告数は 2,155 例で、前年比 3.7%減、小児科・眼科定点把握疾患総報告数の 3.3%を占めた。定点あたり報告数の年平均は 0.21 で、順位は第 6 位であった。

全国集計では 25,270 例の報告で、前年比 25.8%減、小児科・眼科定点把握疾患総報告数の 2.3%を占めた。定点あたり報告数の年平均は 0.15 で、順位は第 8 位であった。

週別（月別）の定点あたりの報告数は、第 1 週（1 月）の 0.22 に始まり第 18 週（5 月）までは 0.06–0.2 の範囲で小幅に増減していた。第 19 週（5 月）から増加し、第 24 週（6 月）には年間最高の 0.82 となった。その後漸減し、第 31 週（8 月）に 0.17 となった。第 32 週（8 月）以降第 47 週（11 月）までは第 34 週（8 月）と第 36 週（9 月）を除き 0.1 以下で推移した。第 48 週（11 月）以降 0.1 を超え、第 51 週（12 月）には 0.16 となり、第 52 週（12 月）は 0.12 であった。

全国集計の同報告数は、第 1 週（1 月）の 0.25 に始まり、第 20 週（5 月）までは 0.2 以下で推移した。第 21 週（5 月）以降上昇し、第 25 週・第 26 週（6 月）には年間最高の 0.43 となった。第 27 週（7 月）以降は漸減し、第 30 週（7 月）以降は第 52 週（12 月）まで 0.2 未満で推移し、第 38 週（9 月）には年間最低値 0.04 となり、第 52 週（12 月）は 0.14 であった。

年齢別患者発生数は、1 歳児の 852 例が最も多く、以下 2 歳児 410 例、3 歳児 273 例、6 か月から 12 か月未満児 258 例、4 歳児 145 例であった。これらの年齢層で全体の 89.9%を占めた。

ブロック別年間患者報告数の上位 5 ブロックは⑦泉州（310 例）、⑪大阪市南部（298 例）、③北河内（270 例）、⑧大阪市北部（210 例）、④中河内・⑥堺市（192 例）であった。

ブロック別定点あたり年間平均報告数の上位 5 ブロックは⑪大阪市南部（0.32）、⑦泉州（0.30）、⑧大阪市北部（0.29）、⑤南河内（0.22）、⑨大阪市西部（0.21）であった。

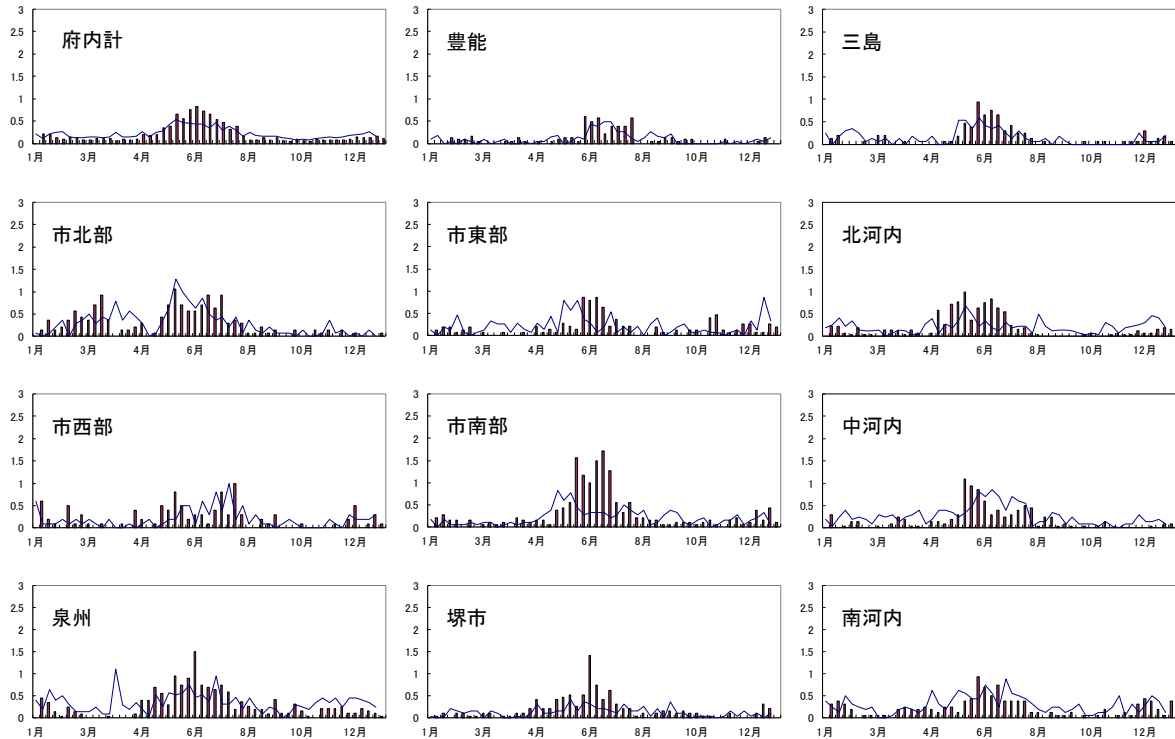
病原体定点医療機関からの検体数は 16 件で、そのうち 8 検体（50.0%）からウイルスが検出された。全例がアデノウイルスで 3 型 3 例、2 型 2 例、41 型 1 例、型判定不能 2 例であった。

（文責：山本）

咽頭結膜熱

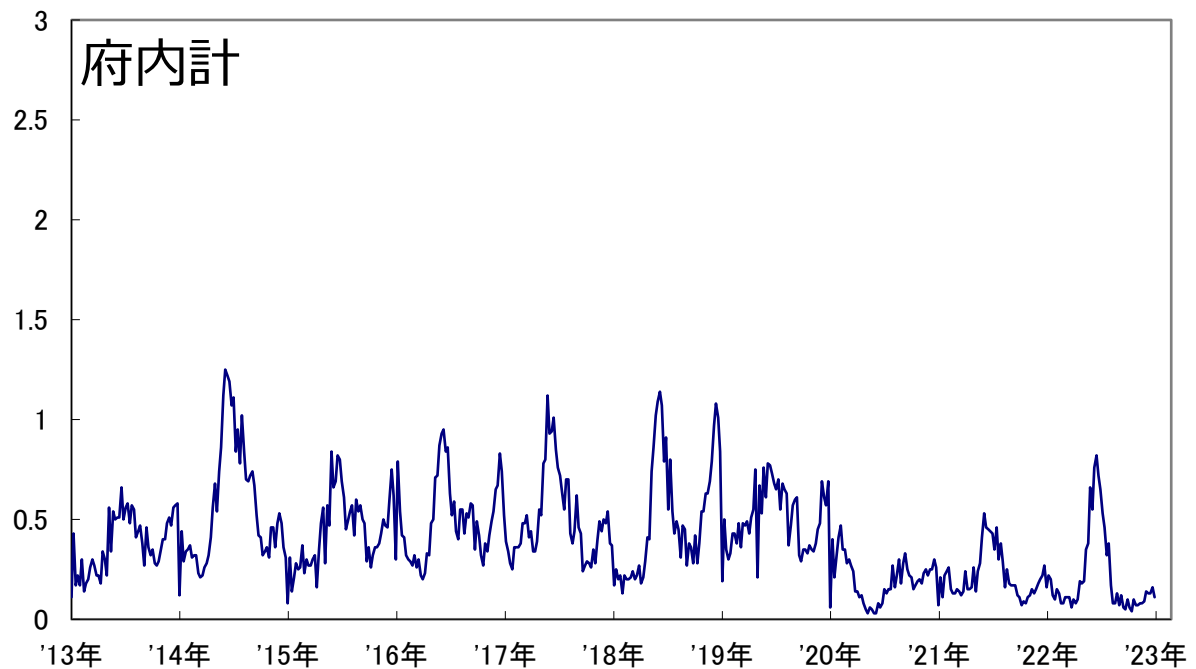
線（2021年第1週～第52週）

棒（2022年第1週～第52週）



ブロック毎の定点あたり報告数の週別推移

線（2013年1週～2022年52週）



定点あたり咽頭結膜熱報告数（府内計）の週別推移（10年グラフ）

●A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎

2022 年の A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎の患者報告数は 3,290 例で、前年比 32.2%減、総報告数(小児科・眼科定点報告対象疾患)の 5.1%を占めた。定点あたりの報告数の年平均は 0.32 で、順位は第 4 位であった。

全国集計では 52,859 例の報告で、前年比 43.8%減、総報告数(小児科・眼科定点報告対象疾患)の 4.9%を占めた。定点あたりの報告数の年平均は 0.32 で、順位は第 4 位であった。

週別(月別)の定点あたりの報告数の推移では年間平均値と比べて、1月から4月と8月に1標準偏差以上少なく、2月、3月、8月は2標準偏差以上少なかった。また、6月と10月から12月にかけて1標準偏差以上多く、10月、11月は2標準偏差以上多かった。例年みられる初夏と冬のピークが認められた。年間最高値は第 42 週(10月)と第 43 週(10月)の 0.60 で、年間最低値は第 10 週(3月)の 0.11 であった。

全国集計では、1月、10月に1標準偏差以上多く、3月、4月、8月に1標準偏差以上少なかった。例年みられるピークのうち、初夏のピークは認められず、冬のピークのみ認められた。年間最高値は第 3 週(1月)の 0.56 で、年間最低値は第 18 週(5月)と第 33 週(8月)の 0.18 であった。

年齢別患者報告数は、3歳の 472 例が最も多く、以下 4歳 428 例、5歳 373 例、10~14歳 369 例、2歳 279 例、6歳 263 例と続き、2歳から6歳で全体の 55.2%を占めた。

ブロック別・年間患者報告数の上位 5 ブロックは、④中河内(824 例)、⑪大阪市南部(568 例)、⑦泉州(500 例)、③北河内(366 例)、⑥堺市(233 例)の順であった。

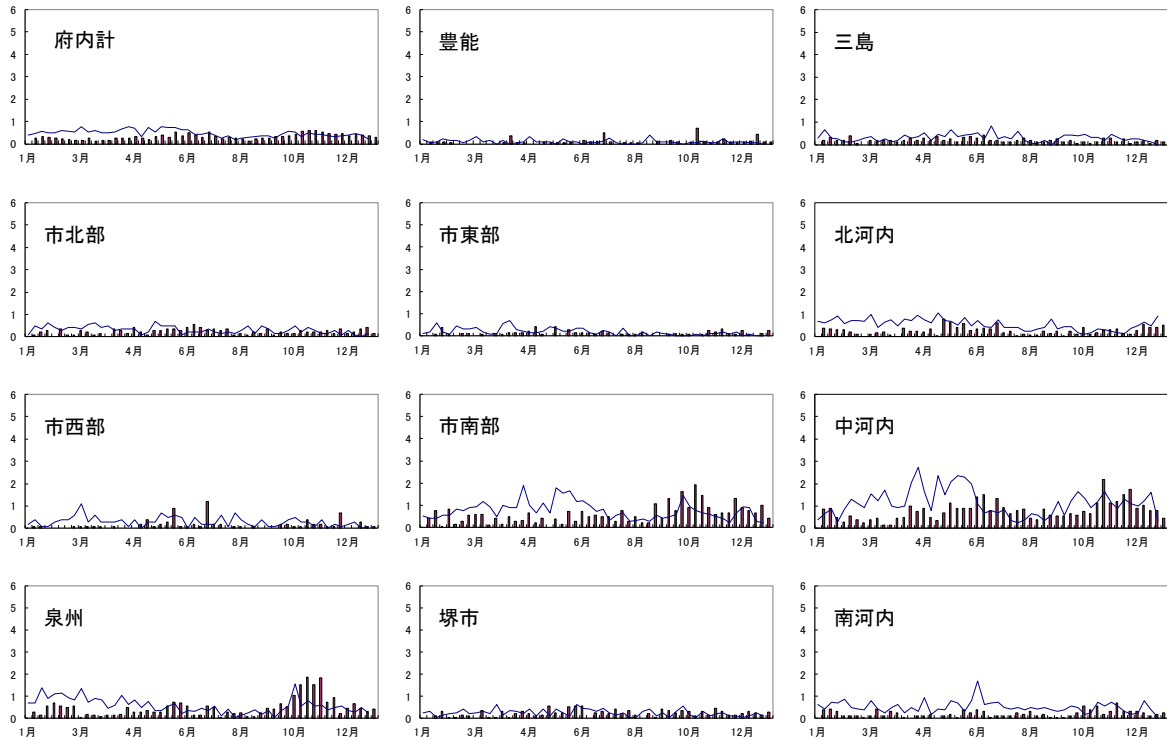
ブロック別・週別定点あたり報告数年平均の上位 5 ブロックは、④中河内(0.79)、⑪大阪市南部(0.61)、⑦泉州(0.49)、③北河内(0.28)、⑥堺市(0.24)の順であった。

ブロック別・週別定点あたり報告数の上位 5 ブロックは、④中河内(第 43 週、2.20)、⑪大阪市南部(第 41 週、1.94)、⑦泉州(第 42 週、1.90)、⑦泉州(第 44 週、1.84)、④中河内(第 47 週、1.75)の順であった。昨年に引き続き、ブロック別・年間、ブロック別・週別ともに、④中河内での報告数が多いのが目立っていた。(文責：富吉)

A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎

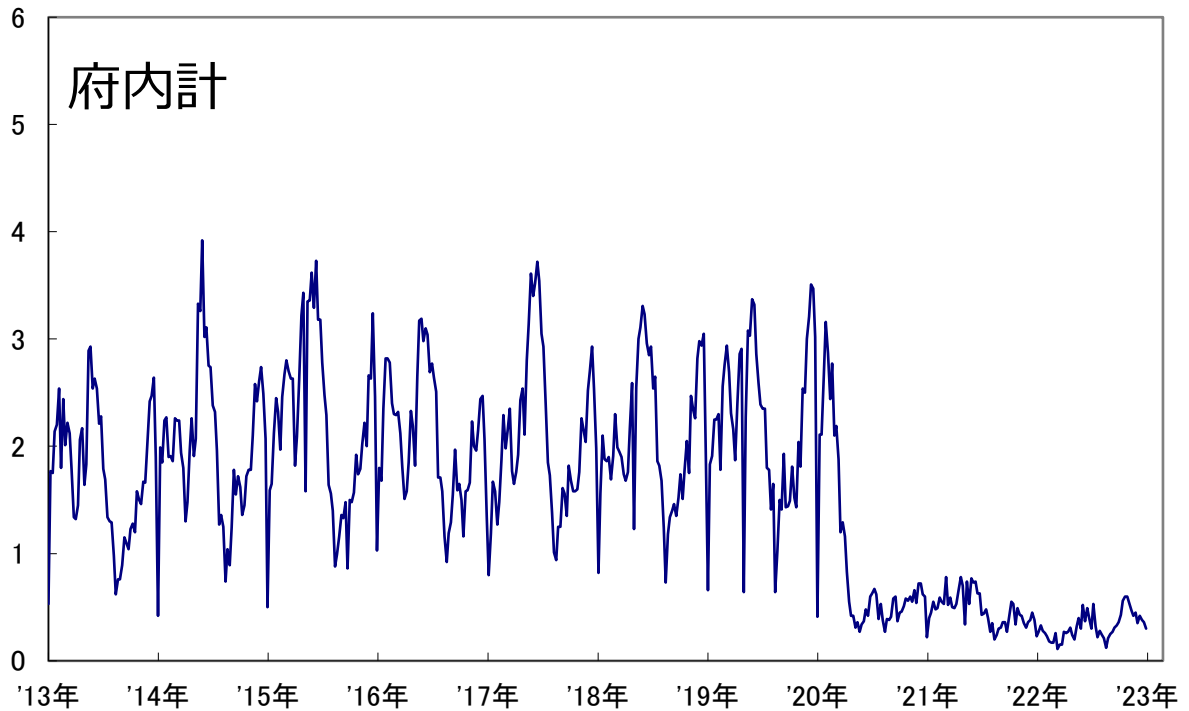
線（2021年第1週～第52週）

棒（2022年第1週～第52週）



ブロック毎の定点あたり報告数の週別推移

線（2013年1週～2022年52週）



定点あたり A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎報告数（府内計）の週別推移（10年グラフ）

●感染性胃腸炎

2022年の感染性胃腸炎の報告数は34,675例で、前年より2,678例、7.2%減少した。小児科・眼科定点報告対象12疾患総報告数の53.3%を占め、第1位であった。定点あたり報告数の年平均は3.40で、前年3.66より7.1%の減少で、過去10年でみると最低値であった2020年2.28に次いで2番目の低値であった。全国集計では報告数612,984例で、前年より20.3%増加し、総報告数の56.7%を占めた。定点あたり報告数は年平均3.76と前年3.11より20.9%増加したが、過去10年で3番目の低値であった。

定点あたり報告数を週別にみると、前年冬からの増加傾向に続き、第3週には年間最高値である7.51まで達した。その後、第6週2.75まで急激に減少し、第12週1.81から再び増加傾向に転じ、第24週6.24とピークを形成した。第33週に年間最低値1.48まで低下後、2前後で推移し、第43週1.98からは週ごとに増加し、第51週に4.88まで達し、ピークを形成した。

全国集計では、概ね大阪府と同様の発生動向を示し、第3週に年間最高値8.08に達した後に減少し、第12週2.80から再び増加傾向に転じ、第24週5.72とピークを形成した。第38週に年間最低値1.64まで低下後、増加傾向となり、第51週に5.60まで達し、ピークを形成した。

定点あたり報告数の月別平均値は、1月、6月、5月、12月、7月、11月の順で高かった。1月に最も高いピークを形成後、6月中旬に再びピークを認め、その後は、例年同様、秋から冬にかけて増加し新たなピークを持つ流行曲線を示した。

ブロック別定点あたり報告数のピーク値が警報開始基準値20.0を超えたブロックは無かった。ブロック別定点あたり報告数の年平均は、⑤南河内5.39、④中河内4.37、⑪大阪市南部3.58、⑧大阪市北部3.43、⑦泉州3.43、③北河内3.21、②三島3.20、⑨大阪市西部3.18、⑥堺市3.04、①豊能2.91、⑩大阪市東部1.46の順であった。

年齢別報告数(0~9歳)は、1歳、2歳、3歳、4歳、0歳、5歳、6歳、7歳、8歳、9歳の順に多かった。0~4歳の報告数は21,204例で全体の61.2%を占めた。5~9歳が7,825例(22.6%)、10~14歳が2,661例(7.7%)、15歳以上が2,985例(8.6%)で、各年齢の全体に占める割合は、前年と同様に4歳以下が60%以上と、例年と較べて4歳以下の占める割合が高かった。

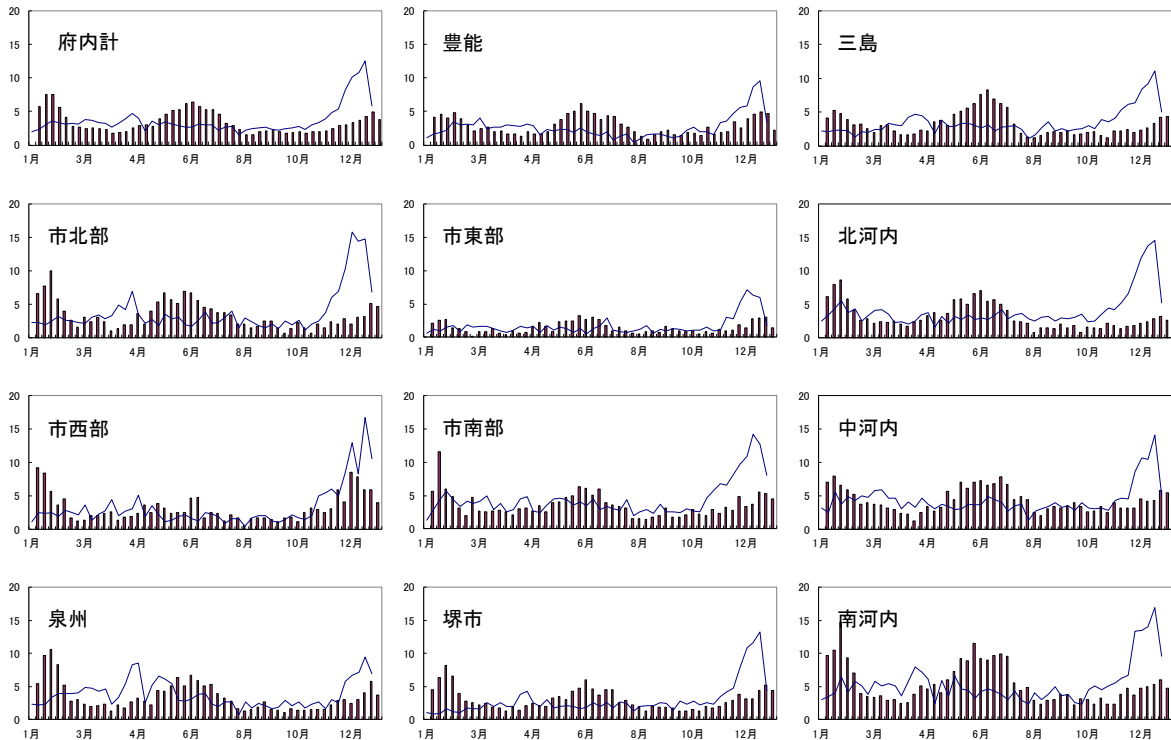
ウイルス検出は125検体のうち陽性だったのは57検体で、陽性率45.6%であった。病原体別でみると、ノロウイルス34件(陽性検体の59.6%、うちノロウイルスGII.3が13件)、サポウイルス13件(陽性検体の22.8%)、アデノウイルス9件(陽性検体の15.8%)、ロタウイルス1件(陽性検体の1.8%)であった。

(文責：國吉)

感染性胃腸炎

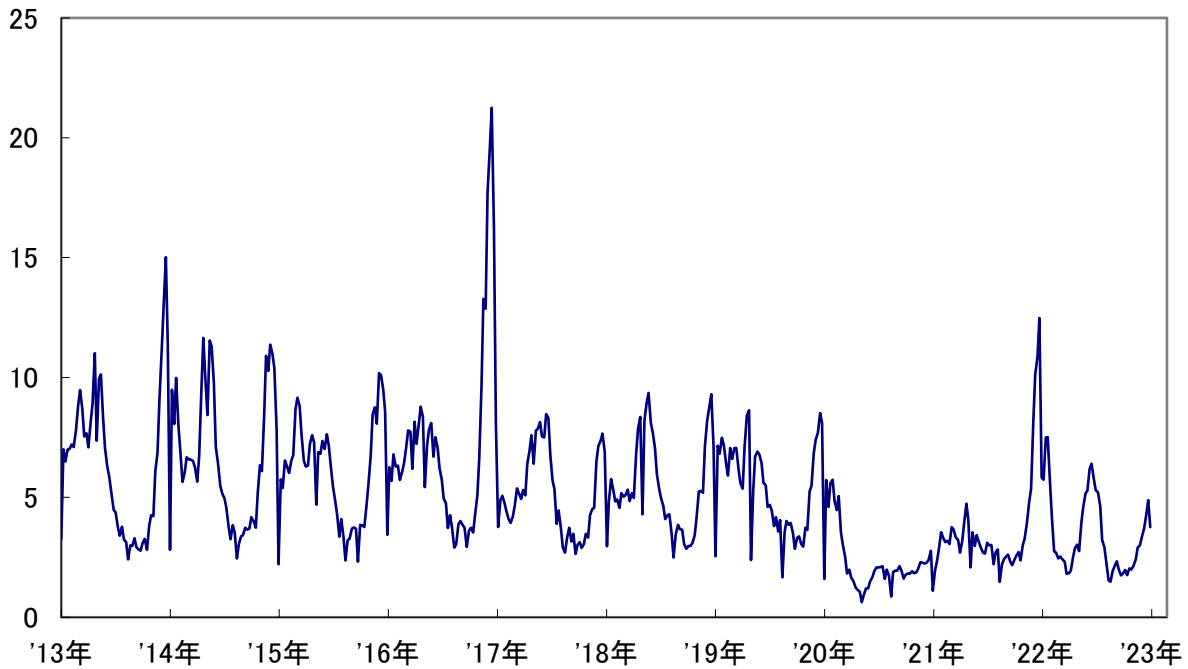
線（2021年第1週～第52週）

棒（2022年第1週～第52週）



ブロック毎の定点あたり報告数の週別推移

線（2013年1週～2022年52週）



定点あたり感染性胃腸炎報告数（府内計）の週別推移（10年グラフ）

●水痘

2022年の水痘の報告数は741例で、前年960例より219例、22.8%減少した。小児科・眼科定点報告対象12疾患総報告数の1.1%を占め、第8位であった。2008年～2010年は第2～3位であったが、2011年～2014年は第3～4位、2015年は第5位であり、2016年以降は8～9位と年々減少し、2021年は2022年と同様第8位であった。定点あたり報告数の年平均は0.07で、前年0.09より22.2%減少した。全国集計では報告数12,506例で前年17,782例より5,276例、29.7%減少した。総報告数の1.2%を占め、定点あたり報告数は年平均0.08と前年0.11より27.3%減少した。

定点あたり報告数を週別にみると、第1週の0.12から第4週にかけて漸減した後、やや急速に年間最低値である第6週の0.01まで低下した。その後、第21週の0.11に至るまで増減を繰り返しながら漸増した後、第31週の0.03に至るまでは増減を繰り返しながら漸減に転じた。第32週の0.06から第43週の0.05までは増減を繰り返しながら推移した。第44週の0.09からは急速に増加に転じ、第46週に年間最高値である0.19となった。その後、減少傾向が続き、一旦、第50週に0.13まで増加したものの再び減少に転じ、第52週に0.08まで減少した。全国集計では、第1週に年間最高値である0.14から急速に減少し第5週に0.06となった後、数回の増減を繰り返しながら微増し、第21週に0.09となった。その後、年間最低値である第38週の0.04まで漸減した後増加に転じた。第45週で0.13のピーク形成後、漸減傾向となり第52週は0.07となった。

定点あたり報告数の月別平均値は、高い方から、11月、12月、1月、6月、5月、10月、9月、4月、7月、8月、3月、2月の順であった。例年のとおり二峰性のピークを認めたものの、春のピークの立ち上がりが遅くなったことに加え、夏から冬にかけて漸増した流行曲線を呈したことが2021年とは異なった。定点あたり報告数の年平均および年間最高値は、いずれも前年よりも低値であり、感染症法が施行され現在の感染症発生動向調査事業の体制となった1999年以降の23年間で最も低値であった。

ブロック別定点あたり報告数の年平均は、⑧大阪市北部 0.11、④中河内 0.10、⑥堺市 0.10、③北河内 0.09、⑤南河内 0.09、⑦泉州 0.06、⑨大阪市西部 0.06、大阪市南部 0.06、⑩大阪市東部 0.05、①豊能 0.04、②三島 0.04の順であった。

年齢別報告数(0～9歳)は、多い方から、9歳、5歳、7歳、1歳、8歳、4歳、6歳、3歳、2歳、0歳の順であった。

0～4歳の報告数および全体に占める割合は、2014年(6,691例、68.4%)、2015年(3,179例、57.4%)、2016年(2,044例、48.0%)、2017年(1,706例、42.3%)、2018年(1,346例、34.3%)、2019年(1,065例、33.0%)、2020年(582例、32.8%)、2021年(312例、32.5%)、2022年(241例、32.5%)であり、2014年10月に水痘ワクチンが小児の定期接種に導入されて以降、報告数・割合とも大幅に減少している。5～9歳の報告数は324例(前年430例)で全体の43.7%(前年44.8%)と減少した。10～14歳の報告数は139例(前年165例)と減少し、割合は18.8%(前年17.2%)で前年より微増した。15歳以上は37例(5.0%)であり、割合は前年5.5%より微減した。

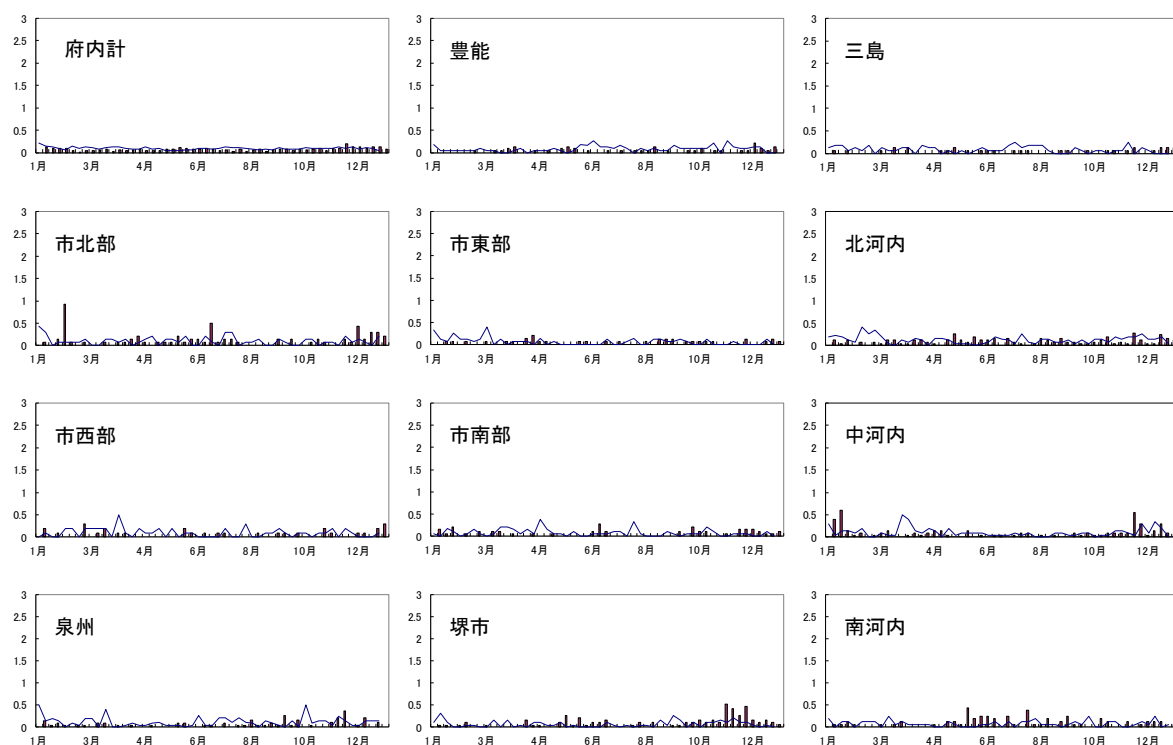
咽頭拭い液2検体中2件、皮膚拭い液・水疱2検体中2件から水痘帯状疱疹ウイルスが検出された。

(文責：國吉)

水痘

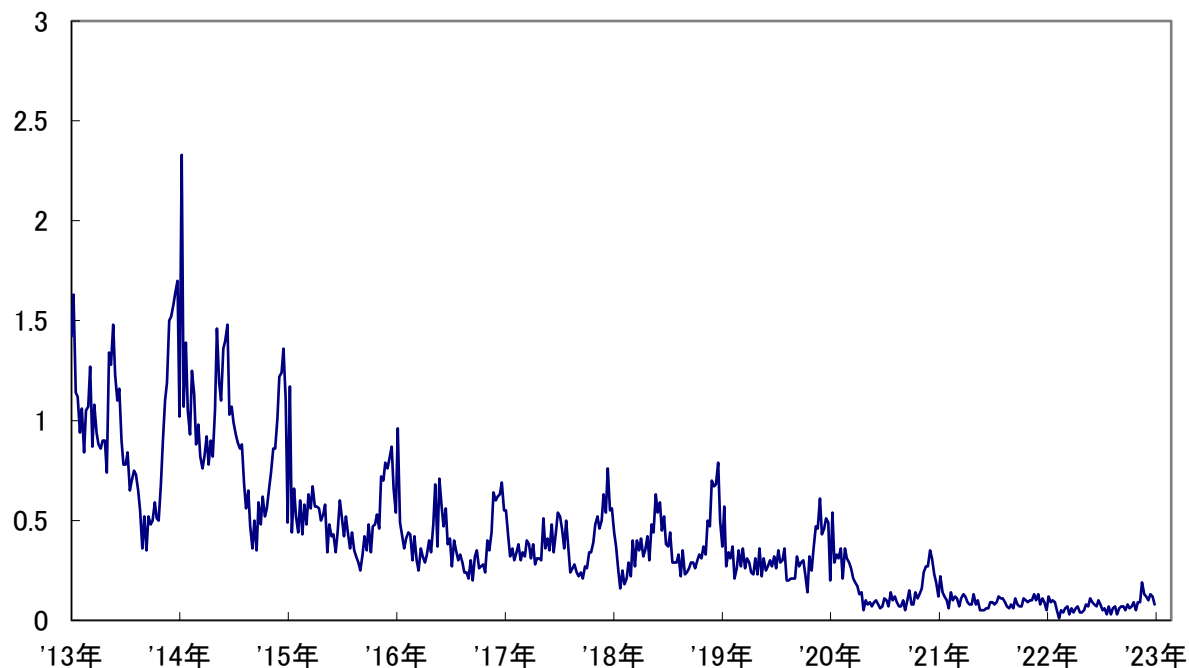
線（2021年第1週～第52週）

棒（2022年第1週～第52週）



ブロック毎の定点あたり報告数の週別推移

線（2013年1週～2022年52週）



定点あたり水痘報告数（府内計）の週別推移（10年グラフ）

●手足口病

手足口病 (hand, foot, and mouth disease : HFMD) は、口腔粘膜および手や足などに現れる水疱性の発疹を主症状とした急性ウイルス性感染症であり、乳幼児を中心に主に夏季に流行する疾患である。主な病原ウイルスは、以前はコクサッキーA16 (CA16)、エンテロウイルス 71 (EV71) であるとされてきたが、2009 年頃よりコクサッキーA6 (CA6) を原因ウイルスとする手足口病が目立つようになり、それにともなって CA6 の検出割合が最多を占める年が多くなりつつある。

これまで、手足口病に特徴的な発疹は口腔粘膜、手掌、足底や足背などの四肢末端に出現する 2~3 mm の水疱性発疹とされてきたが、CA6 を原因ウイルスとする手足口病の場合の発疹は 5mm 前後と水痘を想起させるほどに大きく、上腿、殿部、上腕部、頸部等広範囲にみられることも少なくない。

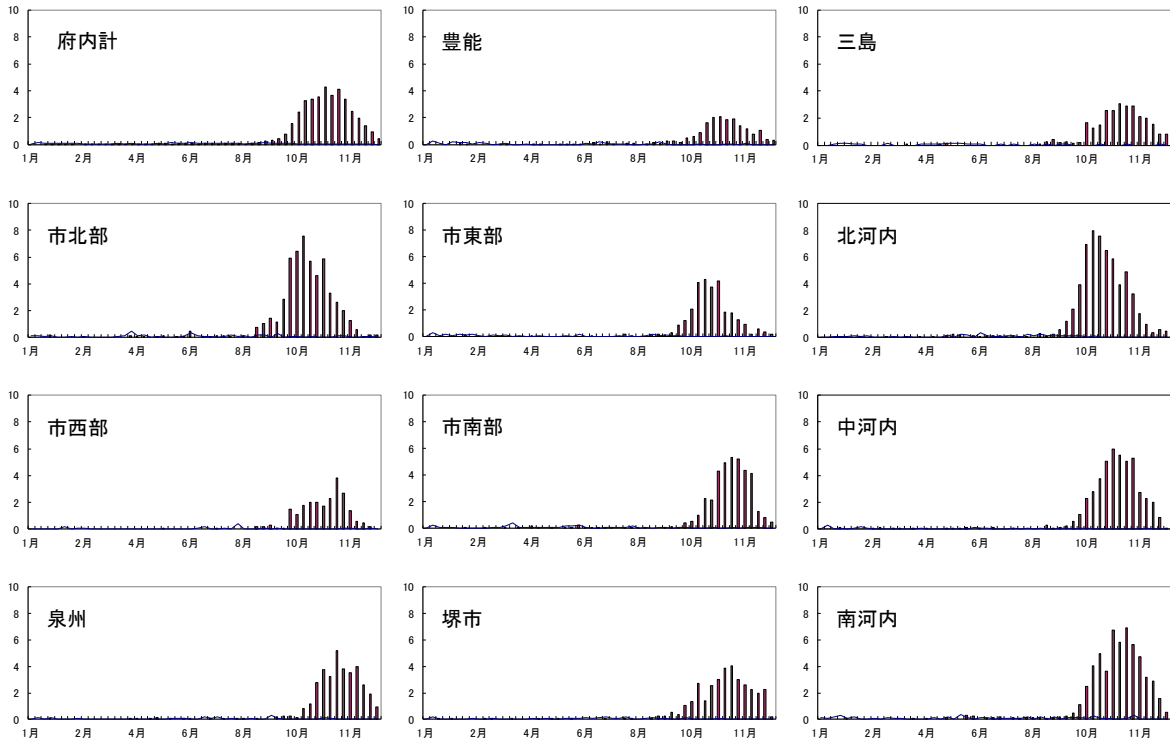
新型コロナウイルス感染症の国内での流行が始まった 2020 年は手足口病の流行は国内ではほぼみられなかったが、その後 2021 年、2022 年と手足口病の国内流行、大阪府内の流行が認められた。2022 年の手足口病の流行のピークは国内流行、大阪府内共に第 36 週 (9 月第 1 週) で、定点当たり報告数は全国平均値 3.77、大阪府 2.35 であり、2021 年とは異なって大阪府の流行は全国平均を下回った。新型コロナウイルス感染症の流行以前の 2019 年までは、手足口病の流行のピークは 7 月 (第 27~30 週) 中となることが殆どであったが、2021 年の流行のピークは全国平均第 41 週、大阪府第 44 週と例年とは大きくことになっており、2022 年も例年よりも遅くにピークを迎えた (図)。

2022 年の国内における手足口病由来検出ウイルスで最も多かったのは、2021 年に続いて CA6 (332 検体、37.5%) であり、次いで CA16 (33 検体、6.7%)、CA10 (10 検体、2.0%) の順であった。大阪府においても検出されたエンテロウイルス 26 検体中 CA6 が 18 検体と最多であり、次いで CA16 (5 検体)、CA10 (2 検体) の順であった。

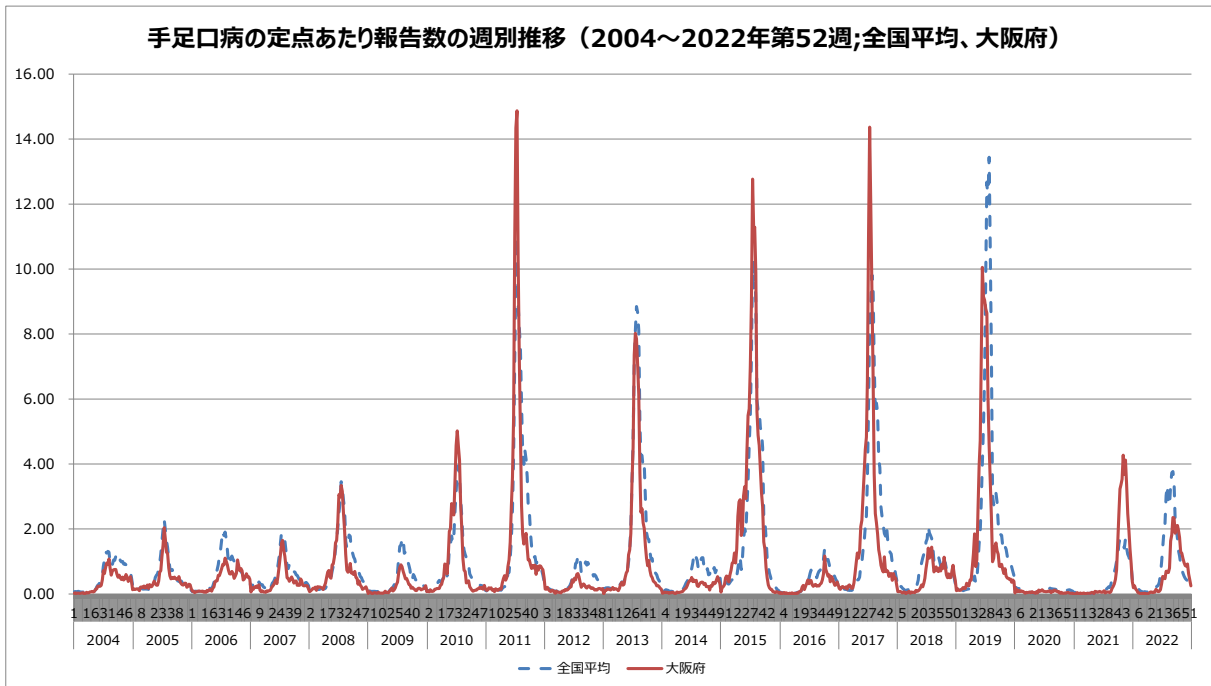
2020 年、2021 年、2022 年と 3 年間に渡って、手足口病はその流行規模、流行時期等過去の流行とは異なっており、少なからず新型コロナウイルス流行の影響を受けているものと推定される。2023 年の手足口病の流行がどのような状況となるのか、注意深い観察が必要であると思われる。(文責：安井)

手足口病

線 (2021年第1週～第52週)
棒 (2022年第1週～第52週)



ブロック毎の定点あたり報告数の週別推移



2004～2022 年の手足口病定点あたり報告数週別推移 (全国平均、大阪府)

●伝染性紅斑

2022年の伝染性紅斑の報告数は102例で、前年の111例より9例、8.1%減少した。小児科・眼科定点報告対象12疾患総報告数の0.2%を占め、第11位であった。定点あたり報告数の年平均は0.01で、前年0.01と同様であった。全国集計では報告数1,885例で前年2,209例より14.7%減少し、総報告数の0.2%を占めた。定点あたり報告数は年平均0.01と前年0.01と同様であった。

定点あたり報告数を週別にみると、第36週に年間最高値である0.04になるも、年間を通じて小刻みに増減し0.01～0.03で推移した。全国集計では、年間通じて0.01～0.02で推移した。

定点あたり報告数の月別平均値は、2・9月、4月、7・12月、1・5月、3・6・8・10月、11月の順で多かった。例年通りの春から夏にかけて増加する傾向は見られず、特にピークもなく、例年より低いレベルで推移した。

過去10年では、2011年、2015年、2019年とおおよそ4年毎に比較的大規模な流行がおこっている。2019年の年間最高値1.30は過去10年間でも最高値であったが、本年の定点あたり報告数の年平均および年間最高値は、感染症法が施行され現在の感染症発生動向調査事業の体制となった1999年以降の23年間で最も低値であった。

ブロック別定点あたり報告数の年平均は、⑧大阪市北部0.02、①豊能・③北河内・④中河内・⑤南河内・⑦泉州・⑨大阪市西部・⑩大阪市東部0.01、②三島・⑥堺市・⑪大阪市南部0.00の順であった。

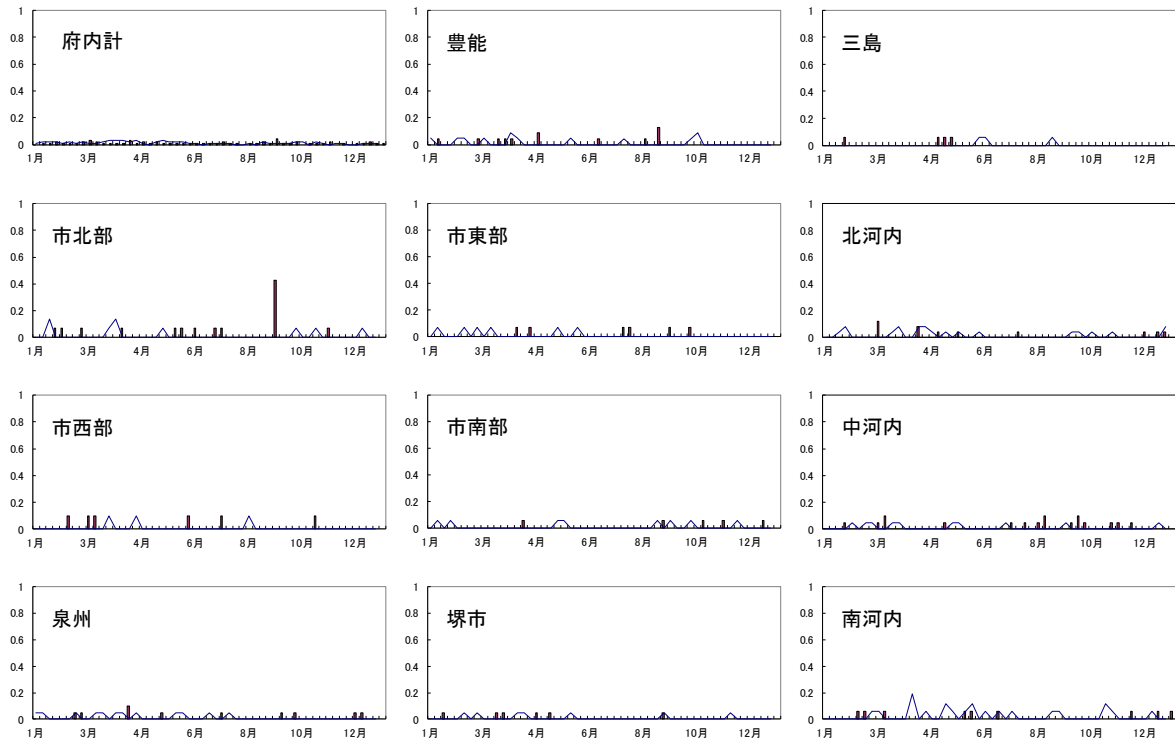
年齢別報告数(0～9歳)は、2歳、1歳、0歳、4歳、3歳、5・6歳、7・8歳、9歳の順に多かった。0～4歳の報告数は74例で全体の72.5%を占めた。5～9歳、10～14歳の報告数と割合はそれぞれ24例(23.5%)、3例(2.9%)で、15歳以上の報告は1例であった。

(文責：國吉)

伝染性紅斑

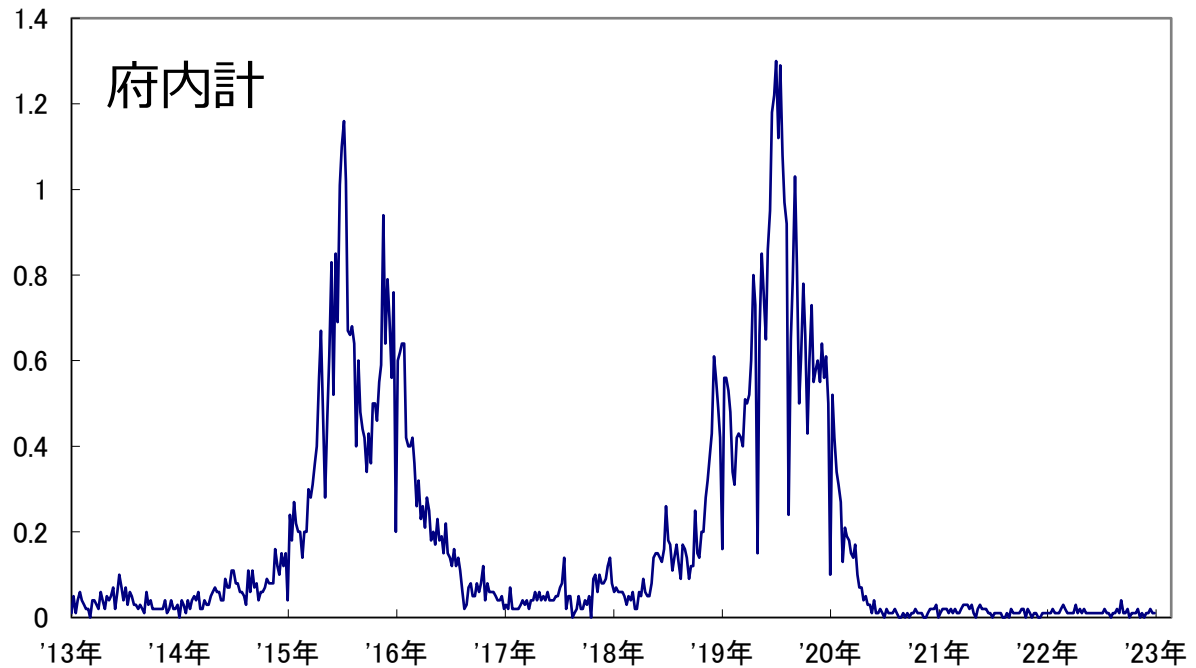
線（2021年第1週～第52週）

棒（2022年第1週～第52週）



ブロック毎の定点あたり報告数の週別推移

線（2013年1週～2022年52週）



定点あたり伝染性紅斑報告数（府内計）の週別推移（10年グラフ）

●突発性発しん

2022年の突発性発しんの患者報告数は2,590例で、前年比27.7%減、総報告数（小児科・眼科定点報告対象疾患）の4.0%を占めた。定点あたりの報告数の年平均は0.25で、順位は第5位であった。

全国集計では47,010例の報告で、前年比21.9%減、総報告数（小児科・眼科定点報告対象疾患）の4.3%を占めた。定点あたりの報告数の年平均は0.29で、順位は第5位であった。

月別（週別）の定点あたりの報告数の推移では年間平均値と比べて、4月、5月に1標準偏差以上多く、2月に1標準偏差以上少なく、それ以外の月は標準偏差以内の変動で、春から初夏にかけて多い傾向があった。年間最高値は第22週（5月）の0.44、年間最低値は第8週（2月）の0.09であった。

全国集計では、5月、6月に1標準偏差以上多く、2月、12月に1標準偏差以上少なく、それ以外の月は標準偏差以内の変動で、初夏に多い傾向があった。年間最高値は第22週（5月）・第23週（6月）・第26週（6月）の0.41、年間最低値は第52週（12月）の0.17であった。

本疾患は、季節性がなく、毎週の定点あたり報告数が一定しているといわれているが、大阪では春から初夏にかけて多い傾向がみられた。

年齢別患者報告数は、1歳の1,397例（53.9%）が最も多く、0歳が798例（30.8%）、2歳が283例（10.9%）であり、0歳と1歳で全体の84.7%、2歳を含めると95.7%を占めた。

ブロック別・年間患者報告数の上位5ブロックは、③北河内（401例）、④中河内（388例）、①豊能（305例）、⑤南河内（290例）、⑦泉州（267例）の順であった。

ブロック別・週別定点あたり報告数年平均の上位5ブロックは、④中河内（0.37）、⑤南河内（0.35）、③北河内（0.30）、⑧大阪市北部（0.28）、⑦泉州（0.26）の順、下位5ブロックは、⑥堺市（0.15）、⑩大阪市東部（0.15）、②三島（0.17）、⑨大阪市西部（0.20）⑪大阪市南部（0.24）で、最上位と最下位では2倍以上の差があった。

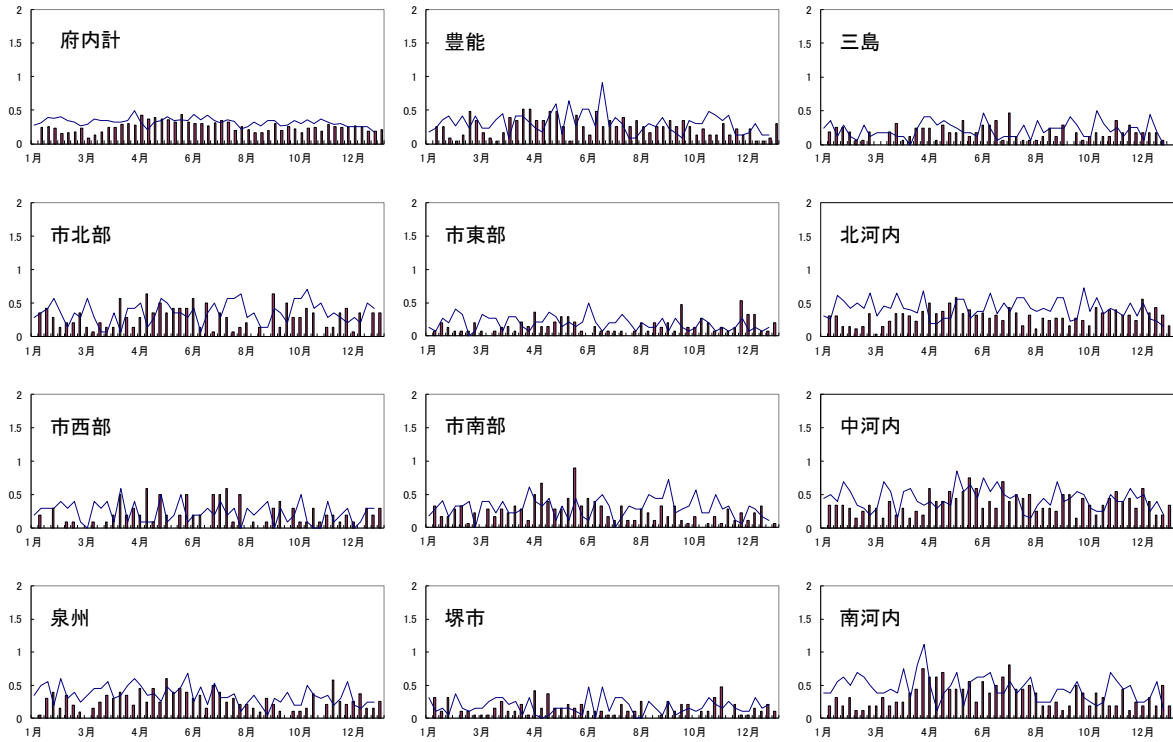
本疾患の特性としてブロック間の差が比較的生じにくいと考えられているが、例年上位と下位では差があり、定点医療機関における受診患者年齢に偏りがいないかどうかなど検討が必要と考える。

病原体定点医療機関からのウイルス検体の提出は19検体あり、HHV6Bが3例、HHV6（型別不明）が3例検出されている。

（文責：富吉）

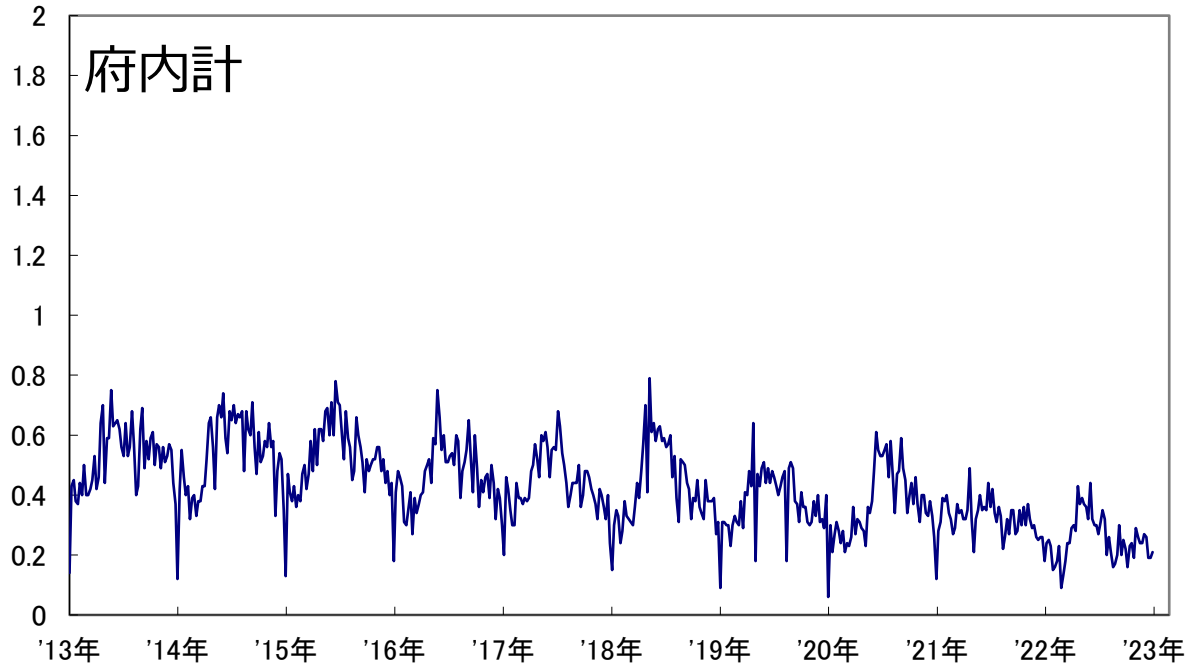
突発性発しん

線（2021年第1週～第52週）
棒（2022年第1週～第52週）



ブロック毎の定点あたり報告数の週別推移

線（2013年1週～2022年52週）



定点あたり突発性発しん報告数（府内計）の週別推移（10年グラフ）

●ヘルパンギーナ

本疾患は、大阪府では、6-7月ごろピークを迎える夏型感染症である。過去、2014年(9,704例)、2016年(8,563例)と隔年で流行したが、2017年以降、2017年(4,967例)、2018年(5,293例)、2019年(5,756例)と推移し、2020年は、新しい生活様式への変化(手洗い、マスクの着用、身体的距離の確保、密閉、密集、密接の回避)、1,554例と減少し、2021年は2,517例と増加していたものの、コロナ禍前と比較すると、依然、少ない状態が続いている。

2022年は、1,988例で、前年比21%の減少であった。2022年は、大阪府における小児科定点当たり報告数の年平均は0.19で、順位は8位であった。日本全国における小児科定点当たり報告数の年平均は0.23で、順位は6位である。

大阪府の週別(月別)の定点あたり報告数の推移では、1月第1週(第1週)から5月第4週(第22週)まで0.01~0.05で推移していたが、9月第1週(第36週)に0.60となり最大値に到達した。その後、増減を繰り返しながら、12月第4週(第52週)には0.15まで減少している。

全国的には、6月第3週(第25週)に0.14となり、ゆるやかに増加し、8月第4週(第35週)に、0.89となり最大値に到達した。その後、1.00を超えることはなく、減少に転じ、12月第4週(第52週)には0.07まで減少した。大阪府において、年齢別患者発生数では、多い順に、1歳599例(30.1%)、2歳451例(22.7%)、3歳294例(14.8%)、4歳190例(9.6%)、1歳未満167例(8.4%)の順で、0~4歳で全体の85.6%を占めた。

ブロック別患者発生数では、定点あたりのブロック別年平均報告数の上位5ブロックは、高い順に、⑧大阪市北部0.28、③北河内0.24、②三島0.23、⑦泉州0.23、⑨大阪市西部0.23であった。ブロック別・週別定点あたり報告数が高かった上位5ブロックは、⑧大阪市北部1.43(8月第4週第34週)、②三島1.35(9月第4週第39週)、①豊能1.13(9月第2週第37週)、⑪大阪市南部1.11(10月第1週第40週)、③北河内1.00(10月第4週第44週)の順で、警報レベル開始基準値6.00を上回っていなかった。平年、報告数は、6、7月に最大になることが多いが、2022年は例年と異なり、8月から11月と長く、ブロック毎に最大となる時期が異なっていた。病原体検出は、多い順に、コクサッキーウイルスA6型(4)、ライノウイルス型不明(2)、アデノウイルス1型(1)、コクサッキーウイルスA16型(1)、エコウイルス25型(1)、エンテロウイルスD68型(1)、ヒトメタニューモウイルス(1)、単純ヘルペスウイルス1型(1)、RSウイルスA型(1)などが検出された。

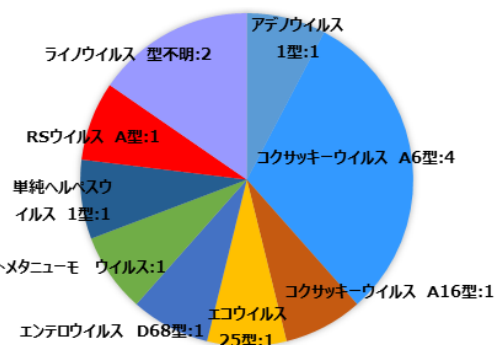
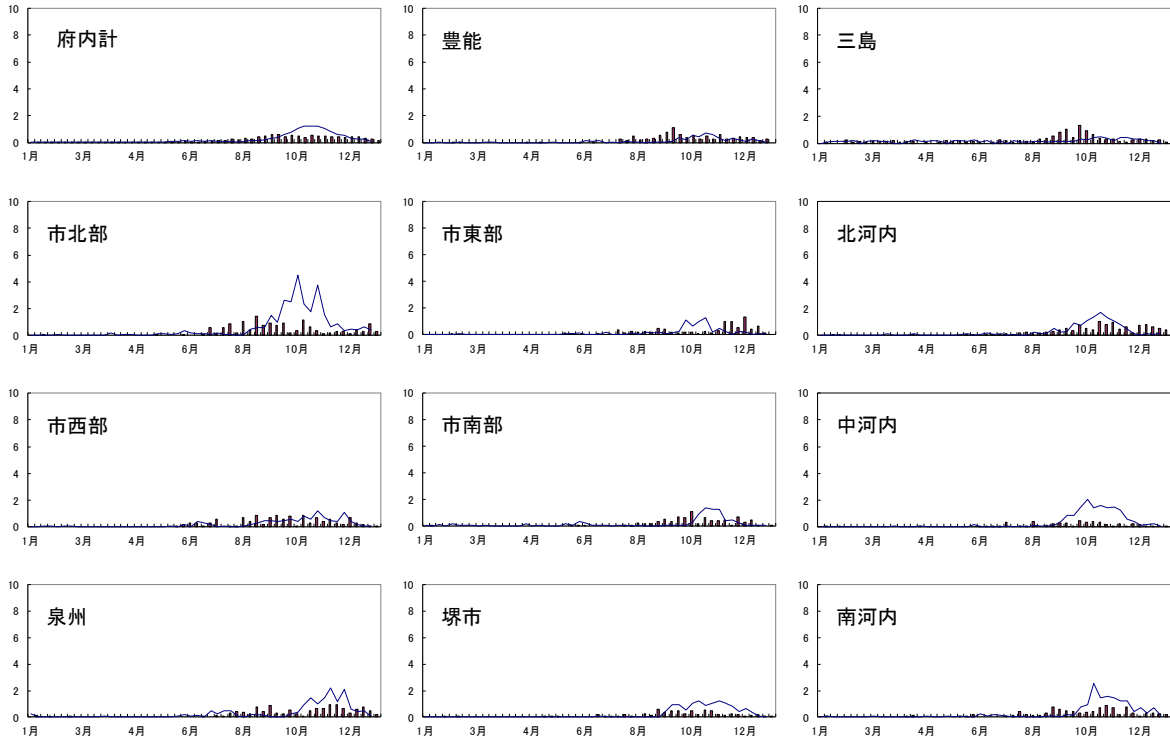


図 大阪府のヘルパンギーナ患者由来ウイルスの検出状況(2022年、総検出数(13))

(文責：本村)

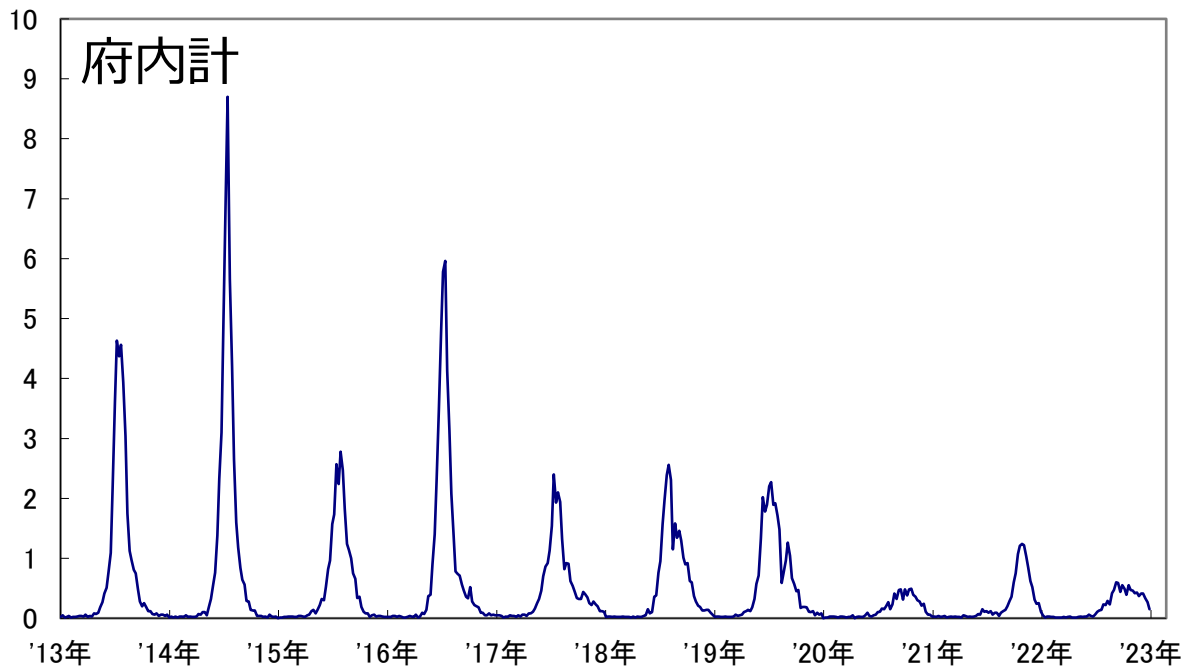
ヘルパンギーナ

線 (2021年 第1週～第52週)
棒 (2022年 第1週～第52週)



ブロック毎の定点あたり報告数の週別推移

線 (2013年 1週～2022年 52週)



定点あたりヘルパンギーナ報告数（府内計）の週別推移（10年グラフ）

●流行性耳下腺炎

2022 年の流行性耳下腺炎の患者報告数は 387 例で、前年比 19.2%減、総報告数（小児科・眼科定点報告対象疾患）の 0.6%を占めた。定点あたりの報告数の年平均は 0.04 で、順位は第 10 位であった。過去 10 年間で最も大きな流行となった 2016（平成 28）年の 1.39 から 6 年連続して減少した。

全国集計では 4,927 例の報告で、前年比 32.7%減、総報告数（小児科・眼科定点報告対象疾患）の 0.5%を占めた。定点あたりの報告数の年平均は 0.03 で、順位は第 10 位であった。

週別（月別）の定点あたりの報告数の推移では、年間を通じて流行はみられず、年間最高値は第 47 週（11 月）の 0.10、年間最低値は第 3 週（1 月）、第 6 週（2 月）、第 32 週（8 月）の 0.01 であった。

全国集計でも、年間を通じて 0.02 から 0.04 で経過し、0.01 の週や 0.04 以上の週はなく、季節性はみられなかった。

年齢別患者報告数は、10～14 歳の 61 例が最も多く、以下 6 歳 56 例、5 歳 47 例、7 歳 46 例、4 歳 45 例、8 歳 38 例と続き、3 歳から 7 歳で全体の 59.9%を占めた。

ブロック別・週別年間患者報告数の上位 5 ブロックは、③北河内（81 例）、⑤南河内（63 例）、⑦泉州（36 例）、⑥堺市（36 例）、④中河内（36 例）の順であった。

ブロック別・定点あたり報告数年平均の上位 6 ブロックは、⑤南河内（0.08）、③北河内（0.06）、⑨大阪市西部（0.06）、⑥堺市（0.04）、⑦泉州（0.04）、⑧大阪市北部（0.04）の順であった。

ブロック別・週別定点あたりの報告数の上位 5 ブロックは、⑤南河内（第 47 週、0.44）⑨大阪市西部（第 18 週、0.30）、⑨大阪市西部（第 37 週、0.30）、⑧大阪市北部（第 43 週、0.29）、⑤南河内（第 44 週、0.25）の順であった。

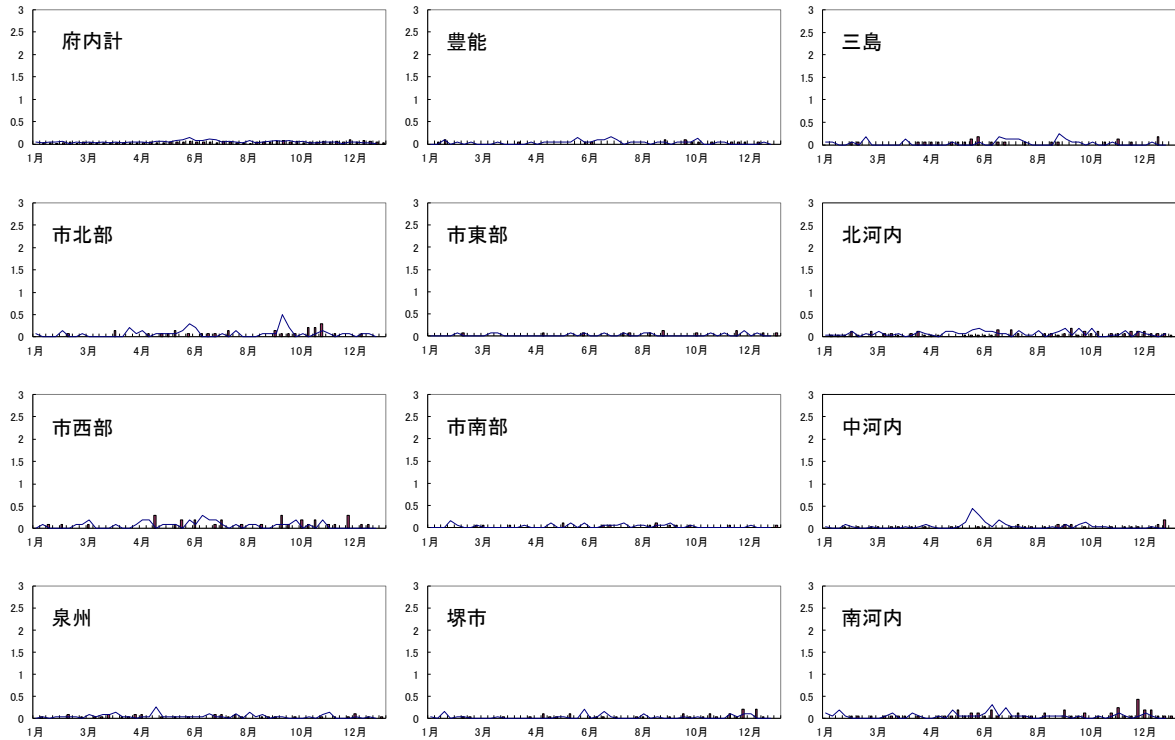
病原体定点医療機関からのウイルス検体の提出は 5 検体あったが、陽性検体はなかった。

（文責：富吉）

流行性耳下腺炎

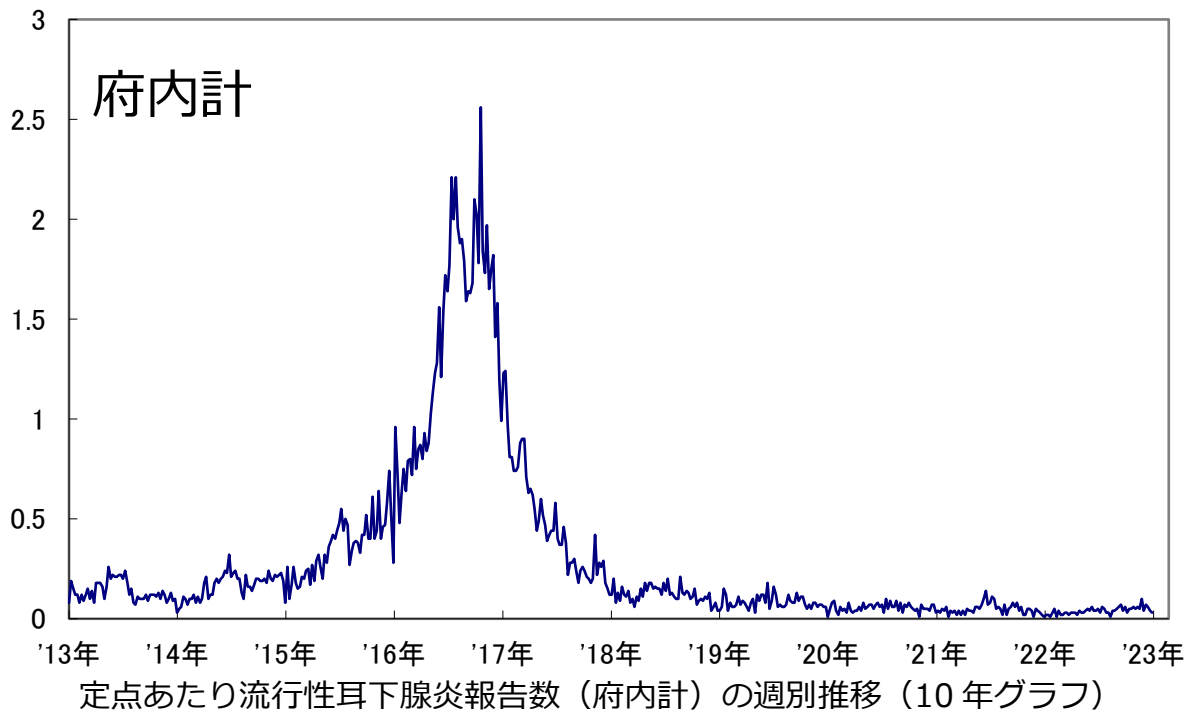
線（2021年第1週～第52週）

棒（2022年第1週～第52週）



ブロック毎の定点あたり報告数の週別推移

線（2013年1週～2022年52週）



3) 眼科定点把握疾患

●急性出血性結膜炎

2022 年（令和 4 年）の急性出血性結膜炎の報告数は前年と同数の 15 例で、眼科医療機関における定点あたりの報告数は 0.01 であった。

府内合計による週別定点あたり報告数は最高が第 26 週の 0.04 で、以下第 3 週、第 4 週、第 5 週、第 9 週、第 13 週、第 19 週、第 20 週、第 36 週、第 37 週、第 49 週、第 50 週、第 51 週の 0.02 が続いた。報告の無い週が 39 週あった。

ブロック別の年間平均で週別定点当たり報告数が高かったのは、中河内と泉州の 0.02 で以下、北河内と大阪市西部の 0.01、大阪市北部と大阪市東部の 0.00 であった。他の 5 ブロックからは報告が無かった。

年齢別では、流行性角結膜炎と同様に成人の報告が多く、20 歳以上の報告数が 13 例と、全体の 86.7%を占めた。

最近 7 年間の眼科医療機関における定点あたりの急性出血性結膜炎報告数

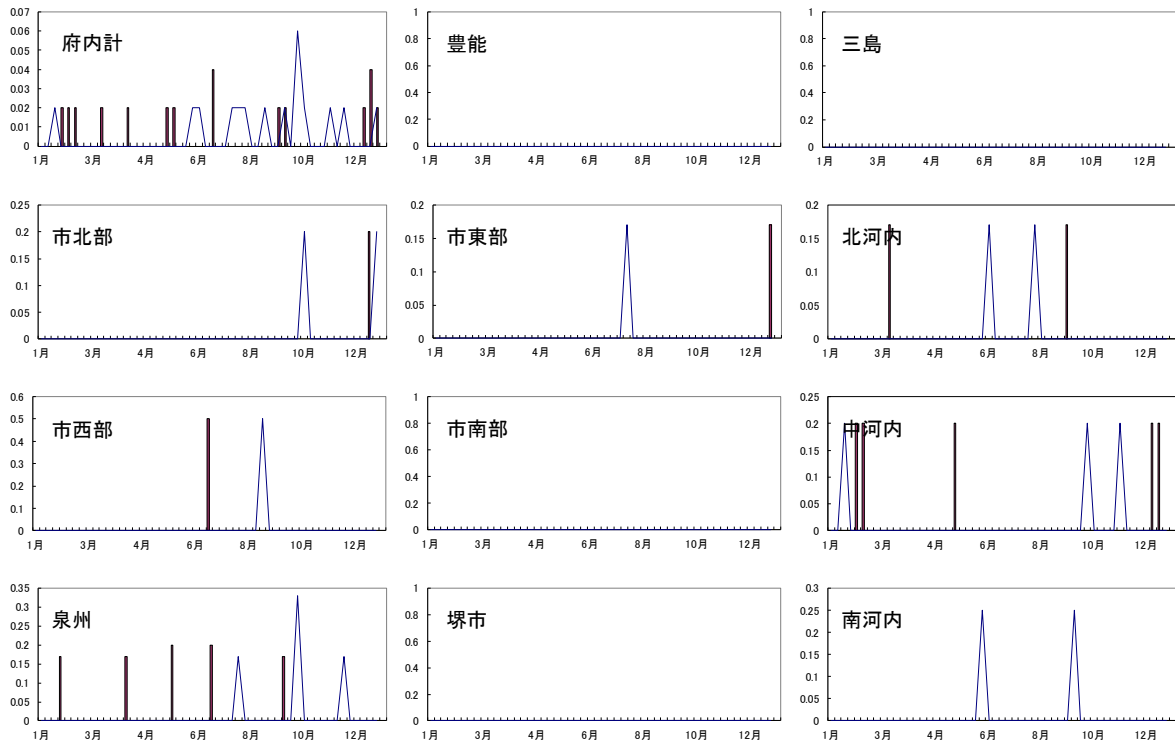
	2016 年	2017 年	2018 年	2019 年	2020 年	2021 年	2022 年
大阪府	0.01	0.02	0.02	0.01	0.00	0.01	0.01
全 国	0.01	0.01	0.01	0.01	0.00	0.00	0.01

（文責 宮浦）

急性出血性結膜炎

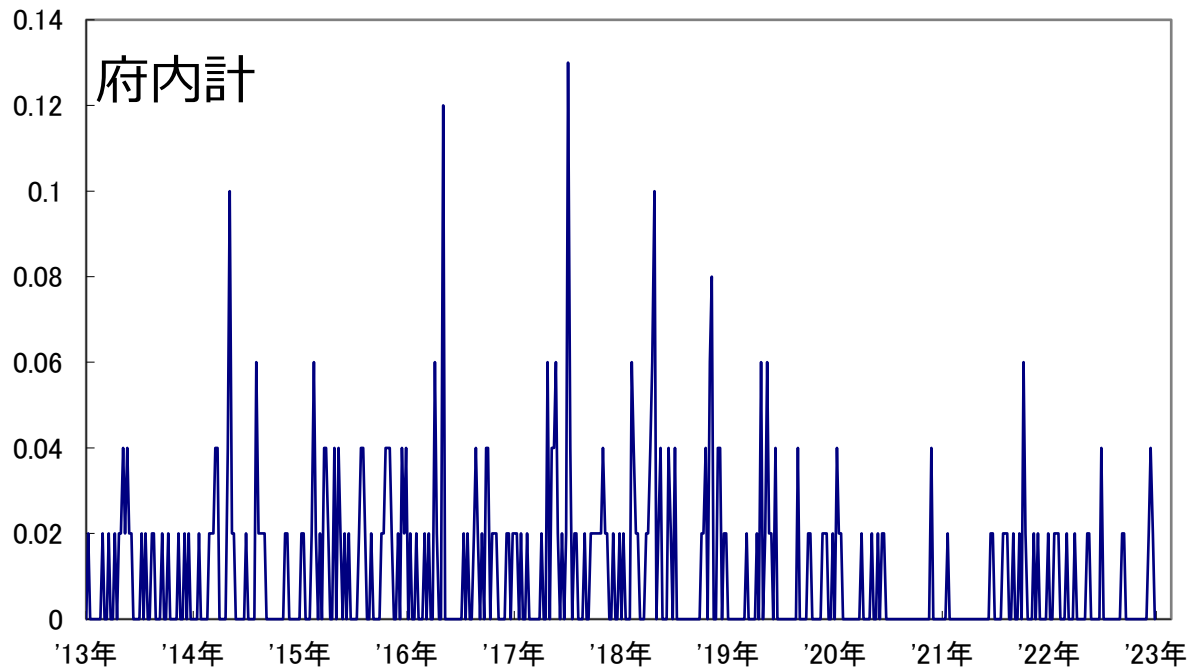
線（2021年第1週～第52週）

棒（2022年第1週～第52週）



ブロック毎の定点あたり報告数の週別推移

線（2013年1週～2022年52週）



定点あたり急性出血性結膜炎報告数（府内計）の週別推移（10年グラフ）

●流行性角結膜炎

2022 年（令和 4 年）の流行性角結膜炎の報告数は 321 例で、前年の 13.8%増となり、眼科医療機関における定点あたり報告数は 0.12 であった。

府内合計による週別定点あたりの報告数で最も多かったのは、第 27 週と 30 週の 0.29 で、以下第 34 週の 0.27、第 24 週と 26 週の 0.26 が続いた。前年同様に定点あたりの報告数が 1.0 を超えた週はなかった。本疾患は夏型感染症とされているが、発生件数が少ないとその傾向は減弱する。本年は、7 月（第 27 週から第 30 週までの 4 週）に年間の 16.2%、6 月（第 23 週から第 26 週までの 4 週） と 8 月（31 週から 35 週の 5 週間）に年間の 13.1%の報告数があった。

ブロック別で週別定点あたり報告数が最も多かったのは、三島の第 27 週の 1.75 で、次いで中川内の 30 週の 1.2、さらに大阪西部の 25 週の 1.0 が続いた。

ブロック別の年間平均で週別定点あたり報告数が最も多かったのは三島の 0.19 で、次いで大阪市南部の 0.18、中河内の 0.17 の順であった。最も低かったのは南河内の 0.04 であった。

年齢別では、例年 20 才以上の報告数が多く、本年も 249 例と全体の 77.6%を占めた。

本年も、大阪府内の定点あたりの報告数は、全国集計よりも低かった。

最近 7 年間の眼科医療機関における定点あたりの流行性角結膜炎報告数

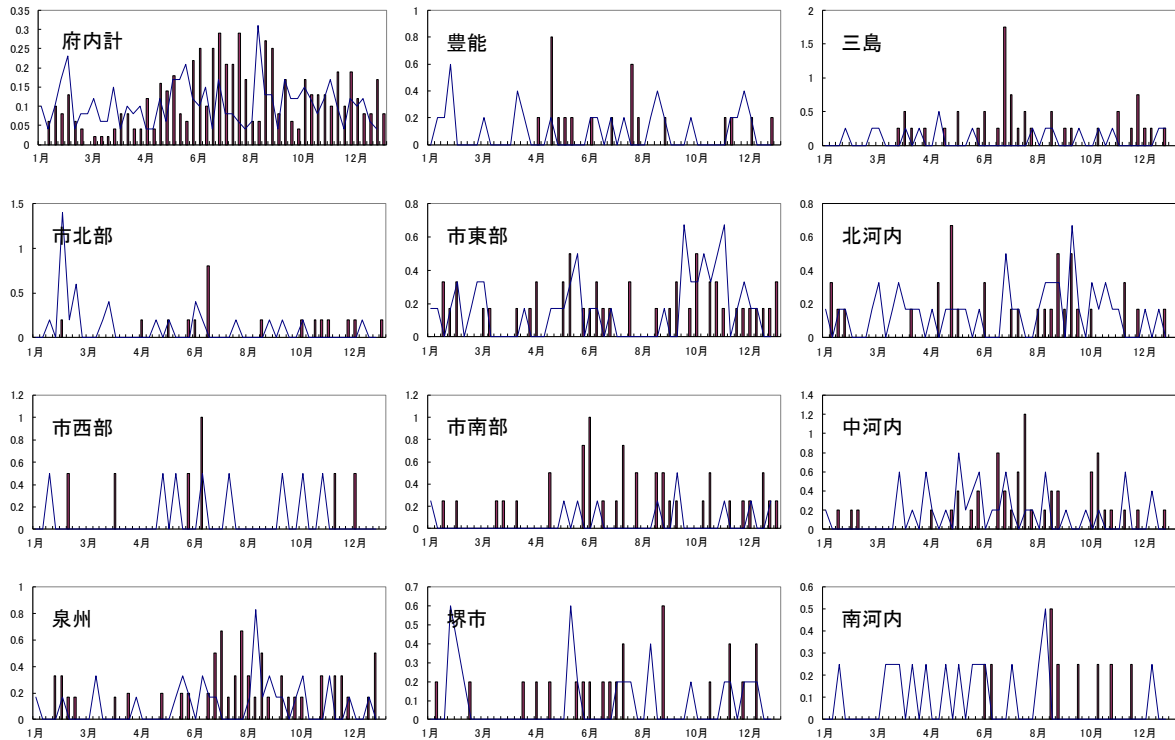
	2016 年	2017 年	2018 年	2019 年	2020 年	2021 年	2022 年
大阪府	0.54	0.41	0.48	0.32	0.13	0.10	0.12
全 国	0.73	0.74	0.85	0.64	0.25	0.19	0.18

(文責 宮浦)

流行性角結膜炎

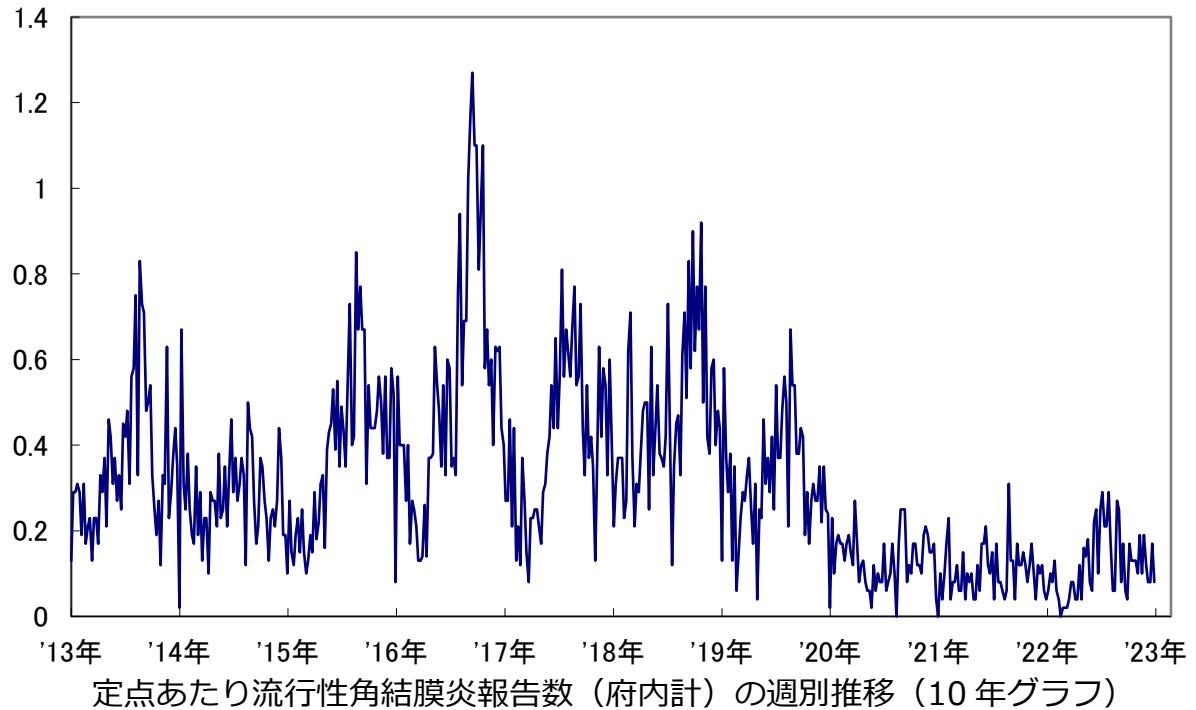
線（2021年第1週～第52週）

棒（2022年第1週～第52週）



ブロック毎の定点あたり報告数の週別推移

線（2013年1週～2022年52週）



定点あたり流行性角結膜炎報告数（府内計）の週別推移（10年グラフ）

4) 基幹定点報告（週報）対象疾患

基幹病院定点報告（週報）対象疾患は、5類感染症の中の細菌性髄膜炎（2013年4月から髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌による、髄膜炎を含む侵襲性感染症が、2014年9月から播種性クリプトコッカス症が全数報告疾患となったので、本項の対象疾患から除く。）、無菌性髄膜炎、マイコプラズマ肺炎、クラミジア肺炎（オウム病を除く）、及び、2013年10月から報告対象となった感染性胃腸炎（病原体がロタウイルスであるものに限る、以下ロタウイルス胃腸炎）の5疾患である。

表 基幹病院定点報告（週報）対象疾患のブロック別報告数および定点あたり報告数

ブロック	(年)	(1) 豊能	(2) 三島	(3) 北河内	(4) 中河内	(5) 南河内	(6) 堺	(7) 泉州	大阪市	合計	定点あたり 大阪	定点あたり 全国	定点数 (大阪)
細菌性髄膜炎	2017年	1	2		1	4	5	1	3	17	1.00	1.10	17
	2018年	1	4		1	5	5	2	1	19	1.12	1.06	17
	2019年	2	7			1		8		18	1.10	0.96	16
	2020年	1	2	2			4		1	10	0.61	0.85	16
	2021年		4				5		1	10	0.61	0.77	16
	2022年		3	1					1	5	0.31	0.64	16

無菌性髄膜炎	2017年	5	4	1		5	27		2	44	2.59	2.00	17
	2018年	5			1	5	14	1		26	1.53	1.68	17
	2019年	7	1		2		20	1		31	1.90	1.71	16
	2020年	5	3			1	5		1	15	0.92	0.95	16
	2021年	4			2	4	6			16	0.98	0.96	16
	2022年	2	3			2	8		1	16	0.98	0.90	16

マイコプラズマ 肺炎	2017年	4	34	30	33	21	58	77	38	295	17.35	17.53	17
	2018年	6	12	39	8	5	30	53	12	165	9.71	11.66	17
	2019年	6	24	30	13	2	31	10	13	129	7.91	12.68	16
	2020年	14	20	12	6	1	24	1	15	93	5.71	7.36	16
	2021年	1			2		1		1	5	0.31	1.39	16
	2022年	2						1		3	0.18	0.82	16

クラミジア肺炎 (オウム病を除く)	2017年			1				2			3	0.18	0.56	17
	2018年	1						1			2	0.12	0.30	17
	2019年	1									1	0.06	0.13	16
	2020年							1			1	0.06	0.12	16
	2021年											0.00	0.05	16
	2022年											0.00	0.07	16

感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	2017年	24	37	4	6	65	57	6	38	237	13.94	10.43	17
	2018年	18	15	5	16	82	42	18	43	239	14.06	6.74	17
	2019年	52	48	9	20	49	55	85	64	382	23.44	9.82	16
	2020年		1			1	4			6	0.37	0.52	16
	2021年	1	1						3	5	0.31	0.19	16
	2022年	1	1					1		3	0.18	0.21	16

表には2017年～2022年の大阪府・市の各基幹定点からの報告数を示した。基幹病院数は16ある。1999年の事業開始時から病院間で報告症例数の差が大きく、ブロック別の検討はしなかった。また、2020年～2022年は新型コロナウイルス感染症の流行のため、感染症の疫学に大きな影響がみられた。

以下に、各疾患について述べる。

●細菌性髄膜炎

(髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌、クリプトコッカスを除く)

2022年は5例が報告され、定点あたり0.31である。3基幹定点から各1例、1例、1例が報告された。年齢は50～59歳2例、70～79歳2例、80～89歳1例であった。原因菌は *Streptococcus dysgalactiae* subsp. *equisimilis* 1例、黄色ブドウ球菌1例、未記載3例であった。髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌、クリプトコッカスによる髄膜炎は5類全数報告を参照されたい。

全国集計では2022年は370例の報告があり、定点あたり0.77、2020年は定点あたり0.85であった。原因菌にはB群レンサ球菌8.1%、黄色ブドウ球菌6.8%、リステリア菌2.7%、肺炎桿菌1.9%などが多い。肺炎球菌、クリプトコッカスの髄膜炎、単純ヘルペスウイルスなどのウイルス、などは含まれるべきではないが、合わせて4.1%あり、原因菌不明の症例は

57.6%であった。髄液中の微生物のマルチプレックス遺伝子検査を導入するなど、原因菌検索の改善が必要である。

●無菌性髄膜炎

2022年は5基幹定点から各基幹定点1~8例、合計16例が報告され、定点当たり0.98で2021年は16例、定点あたり0.98であった。年齢は0~4歳2例、5~9歳1例、15~19歳1例、20~29歳1例、30~39歳2例、50~59歳4例、60~69歳1例、80~89歳4例、性別は男女が11:5であった。月別では3~10月にみられ、3月1例、4月3例、5月2例、7月3例、8月2例、10月5例であった。原因病原体は単純ヘルペスウイルス(HSV)1例、水痘帯状疱疹ウイルス(VZV)1例、報告対象外のクリプトコッカス1例、陰性・記載なし13例であった。一方、本報告書のウイルス検査結果では無菌性髄膜炎69症例の髄液や便・咽頭などからのべ10株が検出され、エコーウイルス6が2株、エコーウイルス9が1株、ヒトパレコウイルス(HPeV)が3株、VZV1株などである。また、疾患名その他の髄液でHPeV計4株と国際B1の1株が検出されている。

全国集計では2022年は431例、定点当たり0.90、2021年は定点あたり0.96であった。原因病原体は84.2%陰性または記載なし、VZV7.7%、HSV2.3%が多い。報告対象外のクリプトコッカス4例、結核菌1例が含まれている。国立感染症研究所のIASRのデータをみると2022年の無菌性髄膜炎108例(COVID-19以前の症例数の2割程度)からエコーウイルス6が13.0%、ムンプスウイルス8.3%などが検出されている。

●マイコプラズマ肺炎

3例のみ報告があり定点あたり0.18で、2021年同様に少数例であった。2020年の定点あたり5.81に比し95%の減少であった。年齢は2歳、10歳、57歳であった。検査方法は抗体価によるもの2例、抗原検査1例で、PCR法やLAMP法などの特異性の高い遺伝子検査陽性例はなかった。大阪では本疾患は2006年、2011年、2016年をピークとする流行を繰り返しており、2020年は増加することが予測されていたが、2020年5月から激減し、COVID-19に対する呼吸器病原体の感染防御行動が奏功したものである。因みに、2022年1年間に大阪市内の本事業の定点ではないA病院小児科で96%が6歳以下の鼻咽頭綿棒検体1892例のFilmarray[®]呼吸器パネル検査では肺炎マイコプラズマの検出はなかった。

全国集計では2022年は定点あたり0.82で、2021年の1.39よりさらに減少した。

●クラミジア肺炎（オウム病を除く）

クラミジア・トラコマチス (*Chlamydia trachomatis*) による新生児期の肺炎と肺炎クラミジア(*Chlamydia (Chlamydia) pneumoniae*) による肺炎が含まれる。オウム病 (*Chlamydia (Chlamydia) psittaci*)は 4 類全数報告感染症である。

2022 年は 2021 年と同様に報告はなかった。全国集計では 3 例のみ報告であった。新型コロナウイルス感染症の流行後に、マルチプレックス RTPCR 法による Filmarray[®]など多種類の呼吸器感染症のウイルス、細菌の核酸検出が可能な診断機器の普及がすすんでおり、抗体価による方法よりも正確な診断が期待できる。上述の A 病院小児科 1892 例から、肺炎クラミジアは 7 歳児 1 例のみ検出された。

全国では肺炎クラミジア 20 例、*Chlamydia trachomatis* 9 例を含む計 32 例の報告があった。2021 年は肺炎クラミジア 19 例、*Chlamydia trachomatis* 3 例を含む 23 例であった

●感染性胃腸炎

(病原体がロタウイルスであるものに限る、以下ロタウイルス胃腸炎)

2020 年 10 月からロタウイルスワクチンが定期接種となり、感染症例は激減している。さらに、COVID-19 パンデミックの影響とおもわれる減少がみられている。2022 年 3 例のみの報告で、定点あたり 0.18 で、2020 年以降は少数例のみであった。報告週は 4、16、34 週に各 1 例、年齢は 2 カ月、2 歳、10 歳であった。全国では定点当たり 0.21 と少数の報告であった。

(文責：塩見)

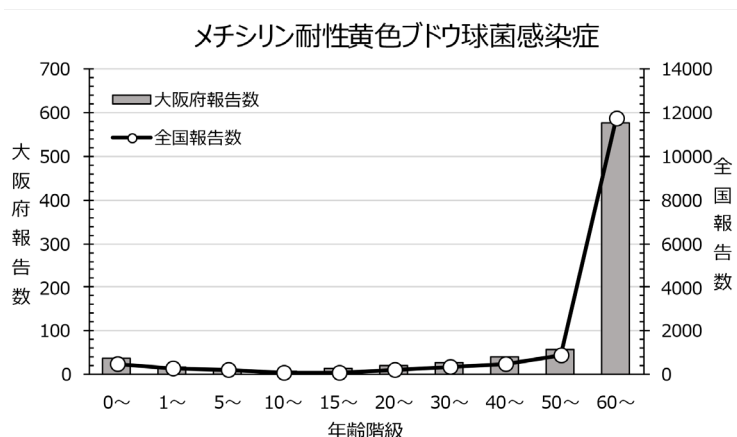
5) 基幹定点報告（月報）対象疾患

基幹定点報告（月報）対象感染症は、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、薬剤耐性緑膿菌感染症の3疾患である。基幹定点報告（月報）対象感染症を報告する大阪府内の基幹病院定点数は第52週時点で17であった。これら薬剤耐性菌は抗菌薬の不適切な使用を背景として、薬剤耐性菌が世界的に増加する一方、新たな抗菌薬の開発は減少傾向にあり、国際社会でも大きな課題となっている。

●メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

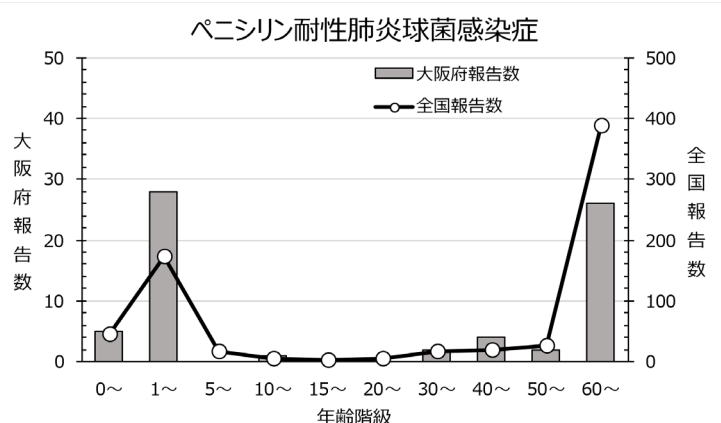
⑩大阪市東部を除く10ブロックから前年比3.4%減の806例の報告があり、定点あたり報告数は47.41であった。年齢別構成は0歳児36例、1～4歳児16例、5～9歳児11例、10～14歳6例、15～19歳14例、20～29歳20例、30～39歳28例、40～49歳40例、50～59歳58例、**60歳以上577例であり、60歳以上が71.6%**を占め、ほぼ前年同様の分布であった。

全国情報（NESID年報 令和5年3月18日現在）では前年比1.5%増の14,726例の報告があり、定点あたり報告数は30.74と大阪府より少なかった。全国の年齢別構成をみると60歳以上が11,713例と79.5%を占めた。大阪府内の報告数は全国の5.5%であった。



●ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

⑦泉州32例、⑤南河内20例、⑥堺市10例、①豊能5例、③北河内1例の5ブロックから、前年比13.9%減の68例の報告があり、定点あたり報告数は4.00であった。年齢別構成では0歳児5例、1～4歳児28例、5～9歳児0例、10～14歳1例、15～19歳0例、20～29歳0例、30～39歳2例、40～49歳4例、50～59歳2例、60歳以上26例であり、**前年同様に0～4歳児と60歳以上の年齢群での報告数が多く、それぞれ48.5%、38.2%**であった。



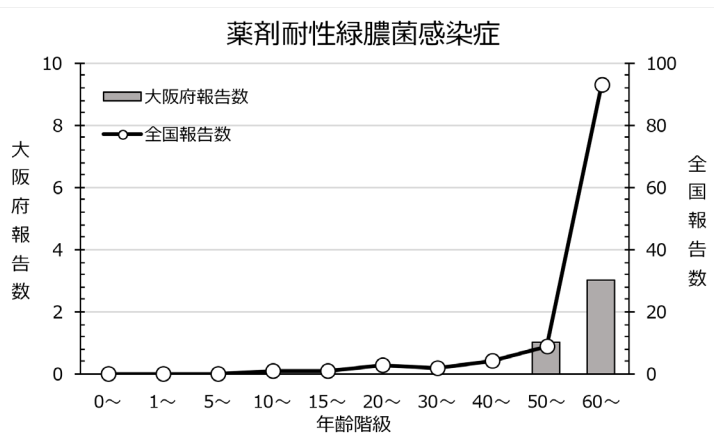
全国情報（NESID 年報）では前年比 17.6%減の 695 例、定点当たり報告数は 1.45 と大阪府より少なかった。全国の年齢別構成をみると 0～4 歳児と 60 歳以上が多く、それぞれ 31.1%、56.0%と大阪府と同様であった。大阪府内の報告数は全国の 9.8%であった。

●薬剤耐性緑膿菌感染症

①豊能 2 例、③北河内 2 例の 2 ブロックから 4 例報告があった。前年度 10 例から 0.4 倍に減少した。定点当たり報告数は 0.24 であった。年齢別構成は、50～59 歳 1 例、60 歳以上 3 例であった。

全国情報（NESID 年報）では前年比 28.9%減の 113 例の報告があり、定点当たり報告数は 0.24 と大阪府と同様であった。全国の年齢別構成をみると 60 歳以上が 93 例と 82.3%を占めた。大阪府内の報告数は全国の 3.5%であった。

（文責：神吉）



2022(令和4)年 感染症の動向

大阪府・大阪市・堺市・東大阪市・高槻市・豊中市・枚方市・八尾市・寝屋川市・吹田市
感染症発生動向調査委員会

感染症発生動向調査事業は医師会、大阪府、大阪市、堺市、東大阪市、高槻市、豊中市、枚方市、八尾市・寝屋川市・吹田市の密接な連携のもとに実施されている。大阪府感染症情報解析委員会は毎週水曜日に開催され、定点の先生方からの毎週の患者情報と、大阪健康安全基盤研究所、堺市衛生研究所の病原体検出情報とを併せて解析・評価し、還元している。2022年の感染症発生動向調査結果の概要を報告する。

はじめに

2022年第52週時点の大阪府の小児科定点は197、インフルエンザ定点は300、眼科定点は52、基幹病院定点は16であり、前年とほぼ同様である。小児科・眼科定点疾患の1年間の患者報告数の総計は65,017人で前年より14.5%減少した。インフルエンザを除く疾患別では感染性胃腸炎が1位であり、次いでRSウイルス感染症、手足口病、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、突発性発しんの順である。第6位以下は、咽頭結膜熱、ヘルパンギーナ、水痘、流行性耳下腺炎、流行性角結膜炎、伝染性紅斑、急性出血性結膜炎であった。上位5疾患はそれぞれ全体の53.3%、18.9%、9.9%、5.1%、4.0%で、5疾患の合計が全体の91.2%を占めた。

感染性胃腸炎

第1位の感染性胃腸炎の患者報告数は34,675人で、前年に比し7.2%減少し、定点あたり報告数は3.40であった。年齢別では1歳で6,147人(17.7%)と最も多く、2歳が5,016人(14.7%)、3歳が4,002人(11.5%)、4歳が3,108人(9.0%)の順であり、1～4歳までで全体の52.9%を占めた。季節別では春期(3月～5月)に23.0%、夏期(6月～8月)に27.7%、秋期(9月～11月)に16.7%、冬期(12月～2月)に32.6%と冬期に多かった。週別定点あたり報告数では第2週(7.50)、第3週(7.51)と第23週(6.20)、第24週(6.40)にピークがあり、第51週(4.20)、第52週(4.88)で若干増加した。検出されたウイルスは、ノロウイルスが34株、サポウイルスが13株、ロタウイルスが1株、アデノウイルスが9株であった(図1)。基幹定点医療機関からの届出でロタウイルス感染性胃腸炎の報告数は3人であっ

た。

RSウイルス感染症

第2位のRSウイルス感染症は12,319人で、前年に比し23.3%減少し、定点あたり報告数は1.21であった。年齢別では1歳が3,791人(30.8%)で最も多く、2歳が2,840人(23.1%)、3歳が1,664人(13.5%)、6～12か月未満が1,650人(13.4%)、0～6か月未満が1,170人(9.5%)、4歳が735人(6.0%)の順であった。0～2歳までで全体の76.8%を占め、3～4歳が19.5%であった。新型コロナウイルス感染症流行前の2019年までは0～2歳で毎年85%以上を占めており、2020年にRSウイルスの流行がなかった影響が2021年に引き続き、罹患年齢に反映されていると思われる。季節別では春期に3.9%、夏期に77.1%、秋期に15.0%、冬期に4.0%であり、夏期に多かった。週別定点あたり報告数では第28週(6.89)、第29週(7.30)、第30週(6.55)にピークがあった。

手足口病

第3位の手足口病の患者報告数は6,434人で、前年に比し18.0%減少し、定点あたり報告数は0.63であった。年齢別では1歳で2,439人(37.9%)と最も多く、2歳が1,676人(26.0%)、3歳が918人(14.3%)、6～12か月未満で485人(7.5%)の順であり、1～3歳までで全体の78.2%を占めた。季節別では新型コロナ流行以前には夏期にピークを迎える夏型感染症であったが、春期に1.8%、夏期に25.7%、秋期に63.2%、冬期に9.3%と秋期に多かった。週別定点あたり報告数では第36週(2.35)、第37週(2.34)、第39週(2.09)、第40週(2.11)、にピークがあった。検出されたウイルスはコクサッキーA6が12株、コクサッキーA16が4株、ライノウイルスが4株であった(図2)。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

第4位のA群溶血性レンサ球菌咽頭炎は3,290人で、前年に比し32.2%減少し、定点あたり0.32であった。年齢別では3歳が472人(14.3%)で最も多く、4歳が428人(13.0%)、5歳が373人(11.3%)、2歳が279人(8.5%)と続き、2～5

歳までで全体の47.1%を占めた。季節別では春期に21.0%、夏期に23.5%、秋期に34.0%、冬期に21.5%であり、秋期に多かった。週別定点あたり報告数では第42週(0.60)、第43週(0.60)が最大で、1を超えることはなかった。

突発性発しん

第5位の突発性発しんは2,590人で、前年に比し21.7%減少し、定点あたり0.25であった。年齢別では1歳が1,397人(53.9%)で最も多く、6～12か月未満が766人(29.6%)、2歳が283人(10.9%)と続き、6か月～2歳までで全体の94.4%を占めた。季節別では春期に32.0%、夏期に25.5%、秋期に23.4%、冬期に19.1%であり、春期に若干多かった。週別定点あたり報告数では第16週(0.43)、第22週(0.44)で0.4を超えたが、ピークはみられなかった。

インフルエンザ

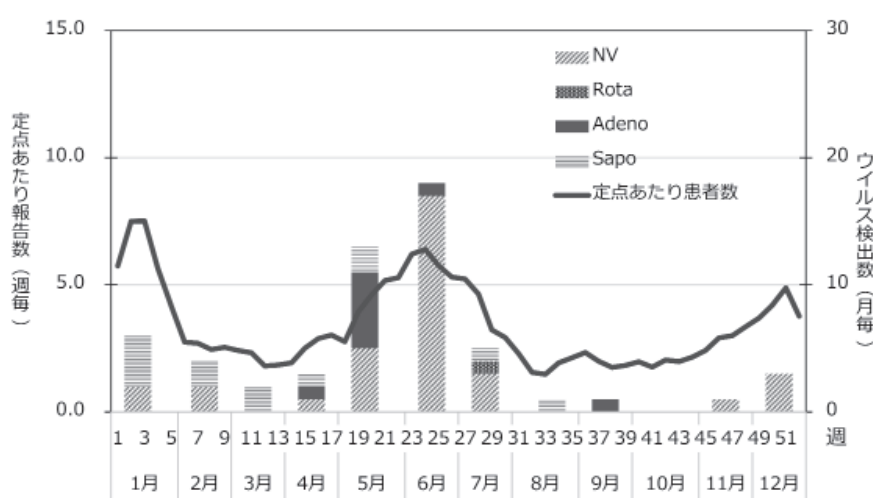
インフルエンザの患者報告数は3,581人で前年に比し38倍に増加し、定点あたり0.23であった。年齢別では20歳以上が689人(19.2%)と最も多く、10～14歳が657人(18.3%)、5歳が320人(8.9%)、6歳が308人(8.6%)と続いた。週別定点あたり報告数では第44週(0.26)から増加し、第51週(2.24)、第52週(4.39)と流行期に入った。インフルエンザウイルスの検出はAH3が6株であった。新型コロナの流行に伴う社会隔離政策や様々な感染予防策により、インフルエンザは2021年、2022年の2シーズンほとんど発生届がなかったが、2022年の年末に再流行が始まった。今後の発生動向に注意を払う必要がある。

おわりに

1982年(昭和57年)に感染症発生動向調査事業を開始して40年が経過しました。この間、関係各位のご理解・ご支援により、貴重な調査結果が集積されています。これらの調査結果の解析や発信が医療や感染症対策に資し、府民の健康・安心・安全に寄与しています。2023年もご理解・ご支援の程よろしくお願いたします。

報告：東野 博彦(河内医師会)

(図1) 感染性胃腸炎ウイルス分離状況



(図2) 手足口病ウイルス分離状況

